

(様式第 10)

分大医総病第 2 2 号
令和 3 年 (2021 年) 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人大分大学長
開設者名 北野正剛

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法 (昭和 23 年法律第 205 号) 第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則 (昭和 23 年厚生省令第 50 号) 第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地	電話 (097) 549 - 4411
----------------------------------	-----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無
内科と組み合わせた診療科名等		
①呼吸器内科		④腎臓内科
②消化器内科		⑦内分泌内科
③循環器内科		⑧代謝内科
⑤神経内科		⑩アレルギー疾患内科またはアレルギー科
⑥血液内科		⑪リウマチ科
⑨感染症内科		
診療実績		

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1腫瘍内科 2児童精神科 3神経小児科 4形成外科 5病理診断科 6リハビリテーション科 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	431人	53人	451.2人	看 護 補 助 者	54人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	8人	2人	8.3人	理 学 療 法 士	12人	臨 床 検 査 技 師	54人
薬 剤 師	44人	0人	44人	作 業 療 法 士	9人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	2人	0人	2人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	26人	0人	26人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 正 師	0人
看 護 師	688人	29人	712人	臨 床 工 学 士	23人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	10人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	11人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	172人
管 理 栄 養 士	9人	0人	9人	診 療 放 射 線 技 師	36人	そ の 他 の 職 員	49人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	49人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	41人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	4人	放 射 線 科 専 門 医	13人
小 児 科 専 門 医	19人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	6人	整 形 外 科 専 門 医	15人
泌 尿 器 科 専 門 医	14人	麻 酔 科 専 門 医	20人
産 婦 人 科 専 門 医	6人	救 急 科 専 門 医	12人
		合 計	228人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (三 股 浩 光) 任命年月日 令和2年4月1日

平成24年 4月～平成29年3月	医療安全部長
平成16年10月～令和2年3月	メディカル・リスクマネジメント委員会
令和2年4月～現在まで	メディカル・リスクマネジメント委員会委員長
平成17年 4月～令和2年3月	感染予防対策委員会委員
令和2年4月～現在まで	感染予防対策委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	481.9 人	10.2 人	492.1 人
1日当たり平均外来患者数	1004.3 人	39.3 人	1043.6 人
1日当たり平均調剤数			1768.51 剤
必要医師数			110.45 人
必要歯科医師数			4 人
必要薬剤師数			23 人
必要(准)看護師数			282 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	236.08m ²	鉄筋コンクリート	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急生数	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71 m ² [移動式の場合] 台数 19 台		病床数	8 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	220 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学分析装置			
細菌検査室	148 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、質量分析器			
病理検査室	139 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置、マイクロトーム			
病理解剖室	283 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台			
研究室	4585 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン、顕微鏡			
講義室	1635 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	収容定員	1495 人
図書室	1703 m ²	鉄筋コンクリート	室数	13 室	蔵書数	108228 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	82.8%	逆紹介率	91.9%
算出根拠	A: 紹介患者の数			9,007人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,031人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			932人
	D: 初診の患者の数			12,003人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 昌司	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
医学部附属病院のホームページにおいて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ロボット支援下胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 肺葉切除が適応される肺癌症例に対し、ロボット支援下に胸腔鏡下肺葉切除、リンパ節郭清術を行う。			
医療技術名	ヌシネルセン髄空内投与	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脊髄性筋萎縮症患者に対し、ヌシネルセンの髄空内投与による治療を行っている。			
医療技術名	HLA半合致同種造血幹細胞移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 同種造血幹細胞移植を必要とするも適切なHLA一致ドナーが見つからない血液疾患患者に対し、移植後シクロフォスファミド投与によるGVHD制御を行い、HLA半合致ドナーからの移植を行う			
医療技術名	局所麻酔下胸腔鏡	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 局所麻酔下で胸腔内へ内視鏡を挿入して観察下に胸膜病変からの病理組織生検を行う			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	潰瘍性大腸炎	54
2	筋萎縮性側索硬化症	6	57	非典型溶血性尿毒症症候群	1
3	進行性核上性麻痺	5	58	筋ジストロフィー	2
4	パーキンソン病	47	59	脳表ヘモジデリン沈着症	2
5	大脳皮質基底核変性症	8	60	前頭側頭葉変性症	1
6	シャルコー・マリー・トウース病	1	61	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
7	重症筋無力症	38	62	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
8	多発性硬化症/視神経脊髄炎	47	63	ミオクローニ脱力発作を伴うてんかん	9
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	6	64	結節性硬化症	6
10	封入体筋炎	1	65	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
11	多系統萎縮症	2	66	特発性後天性全身性無汗症	2
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	25	67	エーラス・ダンロス症候群	1
13	ミトコンドリア病	4	68	多脾症候群	1
14	もやもや病	16	69	ウェルナー症候群	1
15	プリオン病	1	70	ファロー四徴症	2
16	HTLV-1関連脊髄症	5	71	急速進行性糸球体腎炎	3
17	特発性基底核石灰化症	1	72	一次性ネフローゼ症候群	6
18	全身性アミロイドーシス	3	73	オスラー病	2
19	遠位型ミオパチー	1	74	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
20	神経線維腫症	16	75	メーブルシロップ尿症	1
21	天疱瘡	4	76	メチルマロン酸血症	1
22	膿疱性乾癬(汎発型)	10	77	家族性地中海熱	5
23	中毒性表皮壊死症	1	78	強直性脊椎炎	5
24	高安動脈炎	5	79	軟骨無形成症	2
25	結節性多発動脈炎	8	80	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
26	多発血管炎性肉芽腫症	21	81	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
27	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	82	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	2
28	悪性関節リウマチ	8	83	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
29	パージャール病	2	84	アラジール症候群	1
30	全身性エリテマトーデス	177	85	IgG4関連疾患	6
31	皮膚筋炎/多発性筋炎	72	86	黄斑ジストロフィー	1
32	全身性強皮症	26	87	レーベル遺伝性視神経症	1
33	混合性結合組織病	21	88	好酸球性副鼻腔炎	18
34	シェーグレン症候群	42	89		
35	成人スチル病	17	90		
36	再発性多発軟骨炎	4	91		
37	ベーチェット病	63	92		
38	特発性拡張型心筋症	26	93		
39	肥大型心筋症	7	94		
40	再生不良性貧血	10	95		
41	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	96		
42	特発性血小板減少性紫斑病	13	97		
43	原発性免疫不全症候群	3	98		
44	後縦靭帯骨化症	2	99		
45	広範脊柱管狭窄症	4	100		
46	クッシング病	3	101		
47	サルコイドーシス	53	102		
48	特発性間質性肺炎	37	103		
49	肺動脈性肺高血圧症	12	104		
50	リンパ脈管筋腫症	6	105		
51	バッド・キアリ症候群	2	106		
52	原発性胆汁性肝硬変	17	107		
53	原発性硬化性胆管炎	2	108		
54	自己免疫性肝炎	20	109		
55	クローン病	16	110		

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・後発医薬品使用体制加算1
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟13対1)	・データ提出加算2
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算1、入退院支援加算の注4(入院時支援加算)及び地域連携診療計画加算
・診療録管理体制加算1	・認知症ケア加算2
・医師事務作業補助体制加算1(20対1補助体制加算)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・急性期看護補助体制加算2(25対1看護補助者5割未満)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算の注2のハ(夜間100対1急性期看護補助体制加算)	・精神科急性期医師配置加算2
・急性期看護補助体制加算の注3(夜間看護体制加算)	・救命救急入院料3
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・救命救急入院料の「注3」に掲げる加算(充実段階評価S)
・看護補助加算2(精神病棟のみ)	・特定集中治療室管理料2、特定集中治療室管理料の注4(早期離床・リハビリテーション加算)
・療養環境加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・重症者等療養環境特別加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算1	・小児入院医療管理料2及びプレイルーム加算
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
・遠隔モニタリング加算	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・腎代替療法実績加算	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・喘息治療管理料	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・がん患者指導管理料イ	・がんゲノムプロファイリング検査
・がん患者指導管理料ロ	・先天性代謝異常症検査
・がん患者指導管理料ハ	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導管理料ニ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来緩和ケア管理料	・検体検査管理加算(IV)
・移植後患者指導管理料(1.臓器移植後の場合)	・国際標準検査管理加算
・移植後患者指導管理料(2.造血幹細胞移植後の場合)	・遺伝カウンセリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・糖尿病透析予防指導管理料の注5(高度腎機能障害患者指導加算)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・乳腺炎重症化ケア・指導料	・胎児心エコー法
・婦人科特定疾患治療管理料	・時間内歩行試験
・腎代替療法指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・ニコチン依存症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・長期継続頭蓋内脳液検査
・がん治療連携計画策定料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・神経学的検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・黄斑局所網膜電図、全視野精密網膜電図
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・コンタクトレンズ検査料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内服・点滴誘発試験	・医療保護入院等診療料
・画像診断管理加算3	・人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・導入期加算2
・CT撮影及びMRI撮影	・センチネルリンパ節加算
・冠動脈CT撮影加算	・処理骨再建加算(四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術)
・外傷全身CT加算	・処理骨再建加算(骨悪性腫瘍手術)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・心臓MRI撮影加算	・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・乳房MRI撮影加算	・椎間板内酵素注入療法
・小児鎮静下MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・頭部MRI撮影加算	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・全身MRI撮影加算	・内皮移植加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・羊膜移植術
・外来化学療法加算1	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・連携充実加算	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・無菌製剤処理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算	・網膜再建術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算	・人工中耳植込術
・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・がん患者リハビリテーション料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・救急患者精神科継続支援料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・精神科作業療法	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術、胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術、胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)、(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を使用した場合)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・同種死体腎移植術
・胸腔鏡下弁置換術	・生体腎移植術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・膀胱水圧拡張術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・植込型除細動器移植術,植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)
・経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・子宮付属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・補助人工心臓	・輸血管管理料 I
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・コーディネート体制充実加算
・経皮的下肢動脈形成術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・同種クリオプレシピテート作製術
・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・放射線治療専任加算(歯科診療以外)
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算(歯科診療以外)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高エネルギー放射線治療	・
・定位放射線治療	・
・病理診断管理加算2	・
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・
・歯科疾患管理料の注11に規定する総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・
・歯科口腔リハビリテーション料2	・
・手術用顕微鏡加算	・
・口腔粘膜処置	・
・歯根端切除手術の注3	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・歯科技工加算1	・
・歯科矯正診断料	・
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、陰腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	下肢動脈バイパス用人工血管(バイオチューブ)作製用鋳型の開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	65,000,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
2	外科手術のデジタルトランスフォーメーション:情報支援内視鏡外科手術システムの開発	猪股 雅史	消化器・小児外科学	54,310,379	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
3	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	田仲 和宏	人工関節学	17,160,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
4	内視鏡外科手術のデータベース構築に資する横断的基盤整備	猪股 雅史	消化器・小児外科学	6,430,320	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
5	抗Aβオリゴマー抗体作成とアルツハイマー病メカニズムの研究	松原 悦朗	神経内科学	5,821,000	補委 国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
6	地域と拠点を結び世界へ展開する新規医療技術の研究・開発:シーズ'A205「眼内炎術中迅速診断法の開発-核酸精製不要・汎用型機器対応の多項目遺伝子検査-」	中野 聡子	眼科	3,000,000	補委 国立大学法人九州大学
7	細胞膜・血液脳関門通過型Aβオリゴマーマイクロ抗体による新規PET画像診断の創出	松原 悦朗	神経内科学	4,550,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
8	光造形と生体内組織形成術による自己成長可能な大血管再建用バイオチューブの開発	宮本 伸二	心臓血管外科学	5,720,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
9	心外膜脂肪が心房線維化をきたす機序解明とこれを抑制する化合物スクリーニング系構築	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	5,070,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
10	敗血症後認知機能障害に対する時計遺伝子リズム是正を目的とした新たな光療法の開発	小山 淑正	手術部	7,020,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
11	小児血液悪性腫瘍疾患時の好中球減少を加味したバンコマイシンの母集団薬物動態解析	海士野恵理乃	薬剤部	400,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
12	迅速な高感度同時測定系を活用した12種の広域抗菌・抗真菌薬のTDMおよびPK/PD解析	甲斐真己都	薬剤部	470,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
13	肝細胞癌患者に対するレンバチニブの母集団薬物動態解析	末繁 嘉朗	薬剤部	470,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
14	免疫チェックポイント阻害剤治療患者におけるirAEと生理活性ペプチドとの関連性の検討	岡原 愛	薬剤部	470,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会
15	Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬による心血管障害の発症と薬物血中濃度の関連性の探索	中原 良介	薬剤部	480,000	補委 独立行政法人 日本学術振興会

小計 15

16	皮膚軟部組織感染症時における遊離型テジグリド濃度を用いた母集団薬物動態解析	篠原 沙織	薬剤部	480,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	クロスプロテクション作用を利用した万能型インフルエンザウイルスワクチンの開発	木津 有美	耳鼻咽喉科学	470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
18	粘膜アジュバント経鼻投与による自然リンパ球への影響	吉永 和弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	ショートハイドレーション法の有用性の検証とNGAL測定の意義	大塚恵理子	薬剤部	253,472	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	Rhoエフェクター分子は、角層バリアの恒常性維持に関与する。	波多野 豊	皮膚科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	子宮内膜症において発現が亢進しているmiR-100の意義に関する研究	竹林 兼利	産科婦人科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	心不全が引き起こす洞結節機能障害のメカニズム解明と新たな治療方法の開発	篠原 徹二	循環器内科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	双極I型障害とII型障害の違いに着眼した、画像所見や薬物反応性の比較研究	寺尾 岳	精神神経医学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	認知症予防に着眼した日本全国を対象とした調査:水道水リチウムの効果	石井 啓義	精神神経医学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	小児固形がん患者に対して包括的な認知機能評価と支援を行い、QOL向上を目指す研究	末延 聡一	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	劇症型アニサキス症における発症要因・メカニズムの解明とリスク管理の構築	水上 一弘	卒後臨床研修センター	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	新規サーファクタント遺伝子変異モデルを用いた肺線維化の分子機構の解明	濡木 真一	呼吸器内科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	サルコイドーシスにおける制御性T細胞の機能と治療機構からみた治療法の解明	安東 優	呼吸器・感染症内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	糖尿病性腎症におけるポドサイト障害:MR蛋白修飾の制御による新たな治療法の確立	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	RNAiを用いた真菌血症に対する新たな治療戦略	平松 和史	医療安全管理医学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	消化管癌腹膜播種に対するレーザー光線を用いた新規光線照射装置の開発	白下 英史	消化器外科	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
32	神経特異的発現蛍光物質を用いた術中自律神経同定法の開発	河野 洋平	高度救命救急センター	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

33	肉腫型染色体転座をつくる。-その基礎となるDNA修復過程の演繹的証明	田仲 和宏	人工関節学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
34	外尿道括約筋幹細胞における抑制系シグナル伝達経路の制御による尿失禁治療法の開発	三股 浩光	腎泌尿器外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
35	乳幼児突然死症候群に潜在する先天性代謝異常症の探索と遺伝カウンセリング体制の構築	島田 祐美	小児科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
36	脳性麻痺早期発見・介入に向けたFidgety運動判定システムの開発	前田 知己	小児科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
37	肥満を伴うサルコペニア発症予防における腸内環境の重要性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
38	早期反応性マーカーを用いた胃癌RTK/KRAS標的治療における感受性予測法の確立	平下 有香	消化器内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
39	ミエリン・マッピング法と神経突起イメージングを用いて気分障害を弁別する試み	秦野 浩司	精神科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
40	ハッチンソン・ギルフォード症候群患者のQOL向上を目指したケアシステムの確立	川野 奈々江	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
41	SLEに対する抗炎症性脂質メディエーターOEA、PEAの機能解明と有用性の検討	尾崎 貴士	膠原病内科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
42	ポータブル型パルスCOオキシメータを用いた周術期禁煙指導の有効性の検討	佐々木 美圭	麻酔科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
43	Wnt/ β -catenin経路阻害剤を子宮内膜症治療に応用する	平川 東望子	産科婦人科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
44	ラマン散乱光を用いた脂肪浸潤を伴う心房線維化の同定～心房細動の新たな治療戦略～	安部一太郎	循環器内科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
45	発熱性好中球減少症時の抗菌薬適正使用と予後改善を志向した新規バイオマーカーの開発	伊東 弘樹	薬剤部	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
46	全身性慢性炎症とNVU障害を基盤としたアルツハイマー病の病態解明	木村 成志	神経内科学	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
47	抗A β オリゴマー最小フラグメント抗体を用いた次世代抗体医薬品の開発	藪内 健一	神経内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
48	胆道癌の個別化治療に向けたゲノム・分子異常予測のための画像診断法の開発	浅山 良樹	放射線医学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
49	新規治療の確立を目的とした全身性強皮症の血管病変モデルの作製	後藤 瑞生	皮膚科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

50	ナノポアシークエンサーを用いた同種造血幹細胞移植後の網羅的ウイルス感染の検出	河野 利恵	血液内科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
51	Dual energyと超遅延相造影CTによる4次元CT血管造影エンドリーク診断	本郷 哲央	放射線科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
52	血糖値変動は冠縮性狭心症発症の危険因子となりうるか	秋岡 秀文	循環器内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
53	重症外傷患者における酸化ストレス制御を目的としたビタミンC補充療法の確立	竹中 隆一	救急医学講座	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
54	ラット脊椎固定モデルにおけるBMPと抗スクレロシン抗体の相互効果の検討	宮崎 正志	整形外科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
55	ユーイング肉腫特異的融合遺伝子によるRNAヘリカーゼAの機能抑制に関する研究	糸永 一朗	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
56	NLRP3インフラソームからみた前立腺炎症の病態解明と新規治療薬の開発	森 健一	腎泌尿器外科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
57	上下気道粘膜免疫における経年的免疫応答動態の解析	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
58	眼感染症・迅速病因診断法の開発ー核酸精製不要・ポータブル型多項目遺伝子検査ー	中野 聡子	眼科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
59	Wnt/ β -catenin経路を標的とした増殖硝子体網膜症の治療法の開発	木許 賢一	眼科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
60	弾性線維腫の原因遺伝子同定とモデルマウス開発ー病態解明に向けて	藤原 作平	皮膚科学講座	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
61	ヒト心房筋に対する炎症性サイトカインIL-10の直接的及び間接的効果	近藤 秀和	循環器内科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
62	肥満関連腎症における尿沈査中ポドサイトmRNA排泄量の有用性の検討と進展機序解明	福田 顕弘	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
63	遺伝性神経変性疾患に認めるtRNA由来小RNAの生理的・病的意義の解明	井上 真紀	小児科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
64	21水酸化酵素欠損症の治療最適化のための尿中・血中のモニタリング指標の比較検討	糸永 知代	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
65	緑色波長光照射による血小板シグナルを介した肺保護効果の検討	小坂麻里子	麻酔科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
66	ヒト胎盤栄養膜細胞における酸化ストレス負荷によるメタボローム解析	井上 尚実	産科婦人科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

67	慢性副鼻腔炎における好中球機能とTLR4およびTREM-1の協調的作用について	森山 宗仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
68	好酸球性副鼻腔炎の病態におけるエンドカンナビノイドシステムの寄与についての研究	梅本 真吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	520,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
69	ラット骨粗鬆症モデルにおける骨粗鬆症治療薬と運動療法の効果の検討	坪内 優太	リハビリテーション部	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
70	ヒト単一胚細胞の新しい質的評価法の開発	西田 欣広	産科婦人科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
71	PIK3CD遺伝子の新規変異によるSLE発症の分子メカニズムの解明	清田 今日子	小児科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
72	網膜色素変性におけるミクログリアのゲノムの酸化の影響の解明	中武 俊二	眼科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
73	胆管癌の抗癌剤治療抵抗性に関わる候補分子Clusterinの機能解析と治療応用	村上 和成	消化器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
74	miR-210 TGマウスにおける尿管管上皮増殖の機序解明と腎癌の新規治療法開発	中田 知里	腎泌尿器外科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
75	てんかんにおける神経調節物質・アデノシンの生理的・病理的意義の解明	岡成 和夫	小児科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
76	喘息発作の全国サーベイランスを介した呼吸器感染症の早期検出と流行把握の研究	是松 聖悟	小児科	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
77	膵IPMNの代謝変化の解明による悪性化のバイオマーカーおよび新規治療標的の同定	平下 禎二郎	消化器外科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
78	蛍光蛋白質導入レオウイルスを用いた診断治療一体型ナビゲーション手術の開発	衛藤 剛	消化器・小児外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
79	肺癌の遺伝子多様性に基づく新規治療法の開発	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
80	周術期合併症に関する予測因子の基礎的検討-スピンメタボロミクス臨床応用	新宮 千尋	手術部	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
81	術中臓器傷害の早期検出を目指した呼気中揮発性有機化合物のリアルタイム測定法の確立	松本 重清	麻酔科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
82	新たな近位超音波ガイド下閉鎖神経ブロック法の開発と磁気刺激による筋電図評価の検証	内野 哲哉	麻酔科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
83	局所麻酔薬は抗酸化作用をもつか？それとも増強作用をもつか？	北野 敬明	麻酔科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

84	膜型人工肺施行中の生体侵襲に対するトロンボモジュリンの有効性の検討	後藤 孝治	集中治療部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
85	急性腎傷害患者に対する持続的腎代替療法の終了基準の模索	安部 隆国	麻酔科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
86	リアルタイムモニタリングによる効果的水素療法の検討	古賀 寛教	集中治療部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
87	ユーイング肉腫におけるマイクロRNAとDNA修復機構の治療抵抗性獲得への関与	河野 正典	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
88	miR-132をバイオマーカーとした子宮内膜症の早期診断・治療介入の構築	甲斐健太郎	産科婦人科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
89	子宮内膜症の癒痕形成メカニズムの解明と薬物療法の開発	奈須 家栄	産科婦人科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
90	免疫チェックポイント阻害による上気道粘膜免疫応答賦活化	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
91	3次元癌微小環境モデルを用いた口腔癌の低酸素環境による悪性形質亢進機序の解明	河野 憲司	歯科口腔外科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
92	大分県の地域特性を活かしたがんゲノム医療と遺伝に関する看護教育プログラムの開発	塚谷 延枝	遺伝子診療室	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
93	神経系細胞の増殖を活性化させるための磁気制御方法、及び脳・運動機能再建システム	藤木 稔	脳神経外科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
94	肥満外科治療による脳内の摂食エネルギー代謝調節因子の解析	正木 孝幸	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
95	25年間の大分市学童検診データを用いた成人生活習慣病予測法の開発	前田美和子	小児科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
96	乳児の自発運動行動評価を利用した、神経発達症の早期発見健診システムの構築	小林 修	小児科	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
97	抗菌ペプチドSLPIの腸管における機能解析と大建中湯の腸炎保護作用の解明	小坂聡太郎	消化器内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
98	持続的腎代替療法を加味した集中治療域における抗感染症薬の母集団薬物動態解析	田中 遼大	薬剤部	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
99	プロトンポンプ阻害薬関連胃底腺ポリープとdysplasiaの発生機序に関する検討	福田 昌英	消化器内科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
100	皮膚扁平上皮癌における腫瘍免疫療法および分子標的薬の適応についての研究	西田 陽登	病理診断科・病理部	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

101	光療法が気分障害患者の脳に及ぼす効果:多角的な脳画像解析	平川 博文	精神神経医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
102	小児がん患者の抗腫瘍薬による致死性不整脈の早期検出法の確立	武口 真広	小児科	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
103	ゲノム編集マウスを用いたケモカインCCL20の炎症性腸疾患における役割の解明	有木 晋平	消化器内科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
104	ラット大腿骨骨欠損モデルにおけるカーボンナノチューブによる骨癒合促進の試み	金崎 彰三	高度救命救急センター	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
105	エストロゲンレセプターからみた前立腺肥大症の病態解明と新規治療法の開発	溝口 晋輔	腎臓外科・泌尿器科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
106	インフルエンザ菌性慢性中耳炎マウスにおける免疫応答とTLR4の関与	松永 崇志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
107	RNA代謝異常による遺伝性網膜変性症の疾患モデル作製と発症機序の解明	八塚 洋之	眼科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
108	難治性心房細動患者の血液成分を器官培養法に応用した線維化機序解明法の構築	福井 暁	循環器内科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
109	細菌由来メンブレンヴェシクルの高感度検出法の開発と慢性炎症性血管疾患からの同定	宮崎 英隆	歯科口腔外科学	3,510,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
110	胸部悪性腫瘍に対するmTORを標的とした治療開発	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
111	術後集中治療患者の人工呼吸器離脱後呼吸不全の治療と予防に対するネーザルピロータイプNPPVとHFNTの有効性の検討	後藤 孝治	集中治療部	400,000	補委	日本血液製剤機構
112	新規脳内因子NPGL及びNPGMの食事誘導性肥満抑制メカニズムの解明	鹿野健史朗	麻酔科学	3,000,000	補委	公益財団法人持田 記念医学薬学振興 財団
113	ウィズコロナ時代の新規リモートがん手術トレーニングシステムの開発	二宮 繁生	消化器・小児外科	100,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
114	免疫チェックポイント阻害薬と殺細胞薬併用療法の期間内における放射線照射についての検討	西川 和男	腫瘍・血液内科学	100,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
115	同種臍帯血移植後のHHV-6再活性化が患者の認知機能に与える影響の検討	緒方 正男	腫瘍・血液内科学	100,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
116	同種造血幹細胞移植後の類洞閉塞症候群の予後指標としての血管内皮細胞マーカーの解析	高野久仁子	腫瘍・血液内科学	100,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団
117	神経伝導検査装置を用いた化学療法による末梢神経障害の評価法の検討	小森 梓	腫瘍・血液内科学	100,000	補委	公益財団法人大分 がん研究振興財団

118	免疫チェックポイント阻害薬の効果予測因子の探索的研究	大津 智	腫瘍・血液内科学	100,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
119	ナノポアシークエンサーによる造血幹細胞移植後の網羅的感染症検出	河野 利恵	腫瘍・血液内科学	100,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団
120	網羅的PCR法を用いた同種造血幹細胞移植後のウイルス感染の研究	本田 周平	腫瘍・血液内科学	100,000	補 委	公益財団法人大分がん研究振興財団

小計 3

計 120

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kubota R, Nishida H, Kondo Y, 他	病理診断科・ 病理部	A case of dendritic dell neurofibroma sith pseudorosettes.	Am J Dermatopathol 2020 Aug; 42(8), 604- 607.	Case report
2	Oyama Y, Nishida H, Kobayashi O, 他	病理診断科・ 病理部	Macroglossia in beckwith-Wiedemann syndrome is attributed to skeletal muscle hayperplasia.	Case Rep Dent 2020 Nov;8871961	Case report
3	Oyama Y, Nishida H, Kondo Y, 他	病理診断科・ 病理部	Pulmonary tumor thrombotic microangiopathy associated with extramammary Paget's disease.	Pathol Int 2020 Jul, 70(9), 680-685	Case report
4	Ishii T, Shiota S, Yamamoto K 他	総合内科・総 合診療科	Inhaled Gorticosteroid-Containing Regimens Reduce Hospitalizations and Healthcare Costs among Elderly Asthmatics: Real-World Validation Using the National Health Insurance Claims Database	Tohoku J Exp Med 2020 Jun;251(2): 135- 145	Original Article
5	Yoshida Y, Yoshimura S, Kinoshita M, 他	内分泌・糖尿 病内科	Oral Salt Loading Test is Associated With 24-Hour Blood Pressure and Organ Damage in Primary Aldosteronism Patients	J Endocr Soc. 2020 Aug 24;4(10):bvaa116	Original Article
6	Nakama H, Okamoto M, Kurosawa K 他	内分泌・糖尿 病内科	A case of adrenaline-predominant paraganglioma diagnosed with a state of shock after glucagon injection.	Hypertens Res. 2020 May;43(5):473-475.	Case report
7	Yoshida Y, Yoshida R, Shibuta K 他	内分泌・糖尿 病内科	Quality of Life of Primary Aldosteronism Patients by Mineralocorticoid Receptor Antagonists	J Endocr Soc. 2021 Feb 16;5(4):bvab020.	Original Article
8	Ozeki Y, Tanimura Y, Nagai S 他	内分泌・糖尿 病内科	Development of a New Chemiluminescent Enzyme Immunoassay Using a Two-Step Sandwich Method for Measuring	Diagnostics (Basel) 2021 Mar 4;11(3):433.	Original Article
9	Maeshima K, Shibata H	膠原病内科	Efficacy of JAK 1/2 inhibition in the treatment of diffuse non-scarring alopecia due to systemic lupus	Ann Rheum Dis. 2020 May;79(5):674-675.	Case report
10	Fukuda A, Minakawa A, Kikuchi M, 他	腎臓内科	Urinary podocyte mRNAs precede microalbuminuria as a progression risk marker in human type 2 diabetic nephropathy.	Sci Rep 2020 Oct ;10(1):18209.	Original Article
11	Furutera N, Fukunaga N, Okita J 他	腎臓内科	Two cases of idiopathic multicentric Castleman disease with nephrotic syndrome treated with tocilizumab.	CEN Case Rep 2021 Feb;10(1):35-41.	Case report
12	Hashimoto T, Ando M, Watanabe E 他	呼吸器内科	Mediastinal cyst infection followed by bacteremia due to Streptococcus anginosus after endobronchial ultrasound-guided transbronchial	Ann Thorac Med. 2020. Apr-Jun 15(2):95-97.	Case report
13	Nureki S, Usagawa Y, Watanabe E 他	呼吸器内科	Veno-Venous Extracorporeal Membrane Oxygenation for Severe Pneumocystis jirovecii Pneumonia in an Immunocompromised Patient without HIV Infection	Tohoku J Exp Med. 2020 Apr;250(4):215- 221.	Case report

14	Matsumoto H, Komiya K, Yamasue M 他	呼吸器内科	Features of active pulmonary tuberculosis without abnormal chest X-ray findings	Infect Dis (Lond) 2020 Jul;52(7):520-523.	Letter
15	Shuto H, Komiya K, Goto A 他	呼吸器内科	Efficacy and safety of fluoroquinolone-containing regimens in treating pulmonary Mycobacterium avium complex disease: A propensity score	PLoS One 2020 Jul 9;15(7):e0235797.	Original Article
16	Hamanaka R, Hashimoto T, Mizukami E 他	呼吸器内科	A case report of primary sternal osteomyelitis caused by polymicrobial bacteria, including Actinomyces israelii	IDCases 2020 Jul 25;21:e00922.	Case report
17	Usagawa Y, Komiya K, Yamasue M 他	呼吸器内科	Risk factors for disease-related deterioration following diagnostic bronchoalveolar lavage procedures in diffuse lung disease: a case-control	PeerJ 2020 Sep 4;8:e9864.	Original Article
18	Komiya K, Yamasue M, Takahashi O 他	呼吸器内科	The COVID-19 pandemic and the true incidence of Tuberculosis in Japan	J Infect 2020 Sep;81(3):e24-e25.	Others
19	Shuto H, Komiya K, Yamasue M 他	呼吸器内科	A systematic review of corticosteroid treatment for noncritically ill patients with COVID-19	Sci Rep 2020 Dec 1;10(1):20935.	Original Article
20	Hamanaka R, Komiya K, Hiramatsu K 他	呼吸器内科	A Duck after Treatment for Extensive Organizing Pneumonia	Intern Med 2020 Dec, Online ahead of print.	Case report
21	Hashimoto T, Takenaka R, Fukuda H 他	呼吸器内科	Septic shock due to Yersinia pseudotuberculosis infection in an adult immunocompetent patient: a case report and literature review	BMC Infect Dis 2021 Jan 7;21(1):36.	Case report
22	Yoshikawa H, Komiya K, Yamamoto T 他	呼吸器内科	Quantitative assessment of erector spinae muscles and prognosis in elderly patients with pneumonia	Sci Rep 2021 Feb 22;11(1):4319.	Original Article
23	Kimura N, Aso Y, Yabuuchi K 他	脳神経内科	Association of Modifiable Lifestyle Factors With Cortical Amyloid Burden and Cerebral Glucose Metabolism in Older Adults With Mild Cognitive	JAMA Netw Open 2020 Jun 1;3(6):e205719	Original Article
24	Kimura N, Aikawa M, Etou K 他	脳神経内科	Association between Matrix Metalloproteinases, Their Tissue Inhibitor and White Matter Lesions in Mild Cognitive Impairment.	Curr Alzheimer Res 2020 Oct;17(6):547-555.	Original Article
25	Ataka T, Kimura N, Mizukami K 他	脳神経内科	Association of Cerebrospinal Fluid Adiponectin Levels With Cerebral Glucose Metabolism In Mild Cognitive Impairment: A Pilot Study.	Curr Alzheimer Res 2020 Nov 9. 17(12):1126-1132.	Original Article
26	Kimura N, Aso Y, Yabuuchi K 他	脳神経内科	Association between objectively measured walking steps and sleep in community-dwelling older adults: A prospective cohort study.	PLoS One 2020 Dec 14;15(12):e0243910	Original Article
27	Ataka T, Kimura N, Matsubara E	脳神経内科	A case of myelin oligodendrocyte glycoprotein-antibody-associated disease presenting with tumefactive demyelinating lesion.	Mult Scler Relat Disord. 2020 Aug;43:102191	Case report
28	Ataka T, Kimura N, Matsubara E	脳神経内科	Temporal Changes in Brain Perfusion in Neuronal Intranuclear Inclusion Disease.	Intern Med 2021 Mar. 60(6):941-944	Case report
29	Akase M, Terao T, Kawano N 他	精神科	More Purpose in Life and Less Novelty Seeking Predict Improvements in Self-Compassion During a Mindfulness-Based Intervention: The EXMIND	Front Psychiatry 2020 Apr.11:252	Original Article
30	Kohno K, Ishii N, Hirakawa H 他	精神科	Lithium in drinking water and crime rates in Japan: cross-sectional study.	BJPsych Open 2020 Oct.6(6):e122	Original Article

31	Terao T, Ishii N, Hirakawa H	精神科	A specific group of patients with diagnostic conversion from depression to bipolar disorder and finally to dementia as a mental GSK-3 disease: a	Bipolar Disord 2020 Jun. 22(4):356-359	Review
32	Hirakawa H, Terao T, Muronaga M 他	精神科	Adjunctive bright light therapy for treating bipolar depression: A systematic review and meta-analysis of randomized controlled trials.	Brain Behav. 2020 Dec.10(12):e01876	Review
33	Hirakawa H, Terao T, Muronaga M 他	精神科	Human leukocyte antigen-DRB1*04:05 might be associated with the development of clozapine-induced agranulocytosis in a Japanese patient	Aust N Z J Psychiatry 2020 May.54(5):542-543	Case report
34	Hirakawa H, Terao T, Muronaga M 他	精神科	A case of clozapine-induced creatine kinase elevation after initiation of clozapine with successful continuation	Aust N Z J Psychiatry 2020 Aug. 4867420951619 Online ahead of print	Case report
35	Hirakawa H, Terao T, Ishii N	精神科	A Case of Facial Pain in Somatic Symptom Disorder Responding to Duloxetine.	J Clin Psychopharmacol 2020 Sep/Oct. 40(5):512-513	Case report
36	Hirakawa H, Ishii N	精神科	Depression as a Factor in Nonadherence in Schizophrenia.	J Clin Psychiatry. 2020 Jun.81(4)	Others
37	Kohno K, Terao T, Hirakawa H 他	精神科	Bell-shaped dose-response curve of antipsychotic drugs and dopaminergic auto-receptors:a hypothesis.	Clin Neuropsychopharmacol Ther 2020 Jun.11:47-48	Others
38	Terao T	精神科	Dampening antidepressant effects via 5-HT 1A auto-receptors	Acta Psychiatr Scand 2021 Jan,143(1):94-95	Others
39	Kawano N, Terao T, Sakai A 他	精神科	Maternal overprotection predicts consistent improvement of self-compassion during mindfulness-based intervention and existential approach: a secondary analysis of the EXMIND	BMC Psychol. 2021 Feb,9(1):20	Original Article
40	Kugimiya T, Ishii N, Kohno K 他	精神科	Lithium in drinking water and suicide prevention: The largest nationwide epidemiological study from Japan	Bipolar Disord 2021 Feb,23(1):33-40	Original Article
41	Ishii N, Terao T, Hirakawa H	精神科	Association between trace levels of lithium in drinking water and COVID-19-associated mortality.	Bipolar Disord 2021 Feb,23(1):100	Others
42	Hirakawa H, Ishii N	精神科	Did Ian Curtis have bipolar disorder?	Bipolar Disord 2021 Mar,23(2):215	Others
43	Suenobu S, Goto H, Hirano N 他	小児科	Early Recovery of Height Velocity in Prepubertal Children With Acute Lymphoblastic Leukemia Treated by a Short Intensive Phase Without Cranial Radiation Therapy.	J Pediatr Hematol Oncol. 2020 May.42(4) 271-274 2020	Original Article
44	Inoue M, Hada K, Shiraishi H 他	小児科	Tyrosine Pre-Transfer RNA Fragments Are Linked to p53-dependent Neuronal Cell Death via PKM2	Biochem Biophys Res Commun. 2020 May525(3) 726-732 2020	Original Article
45	Kuga S, Maeda T, Ihara K	小児科	Pediatric procedural sedation in Japan: A single-facility study of 1,436 cases.	Pediatr Int. 2020 Jun.62(12) 1346-1350 2020	Original Article
46	Itonaga T, Koga E, Nishigaki S 他	小児科	A retrospective multicenter study of bone mineral density in adolescents and adults with Turner syndrome in Japan	Endocr J 2020 May,67(10) 1023-1028	Original Article
47	Goto H, Hirano N, Inoue M 他	小児科	Immune escape by loss of heterozygosis of HLA genes facilitated the transmission of diffuse large B cell lymphoma from mother to offspring.	Br J Haematol. 2020 Apr.189(6) e234-e237 2020	Case report
48	Hirano N, Goto H, Suenobu S 他	小児科	Bone marrow metastasis of neuroblastoma mimicking purulent osteomyelitis.	Jpn J Clin Oncol. 2020 Apr.50(10) 1227-1228 2020	Case report

49	Morishima S, Maeda M, Itonaga T 他	小児科	Sphenoethmoidal meningoencephalocele with variable hypopituitarism: A case report and review of literature.	Clin Pediatr Endocrinol 2020 Oct.29(4) 183-187 2020	Case report
50	Sato R, Okanari K, Maeda T 他	小児科	Postinfectious Acute Disseminated Encephalomyelitis Associated With Antimyelin Oligodendrocyte Glycoprotein Antibody	Child Neurol Open 2020 Jul	Case report
51	Oyake M, Itonaga T, Hirano N 他	小児科	Hydrocortisone improved dexamethasone-induced neuropsychological adverse effects	Pediatr Int. 2021 Feb.63(3) 339-342	Case report
52	Kawano- Matsuda F, Maeda T, Kaname T 他	小児科	X-linked mental retardation and severe short stature with a novel mutation of the KDM5C gene	Clin Pediatr Endocrinol 2021 Jan.30 61-64	Case report
53	Hara T, Hiratsuka T, Etoh T 他	消化器外科	Intraperitoneal phototherapy suppresses inflammatory reactions in a surgical model of peritonitis	J Surg Res 2020 Aug, 252 231-239	Original Article
54	Tada K, Ohta M, Hidano S 他	消化器外科	Fucosyltransferase 8 plays a crucial role in the invasion and metastasis of pancreatic ductal adenocarcinoma	Surg Today 2020 Jul, 50(7)767-777	Original Article
55	Sagawa N, Ohoshima Y, Hiratsuka T 他	消化器外科	Role of increased vascular permeability in chemotherapy-induced alopecia: In vivo imaging of the hair follicular microenvironment in mice	Cancer Science 2020 Jun, 111(6)2146-2155	Original Article
56	Ninomiya S, Amano S, Ogawa T 他	消化器外科	The impact of dementia on surgical outcomes of laparoscopic cholecystectomy for symptomatic cholelithiasis and acute cholecystitis: A retrospective study	Asian J Endosc Surg 2020 Jul, 13(3)351-358	Original Article
57	Hirashita T, Hirashita Y, Iwashita Y 他	消化器外科	S6 ribosomal protein phosphorylation is associated with malignancy of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas	Ann Gastroenterol Surg 2020 Jun, 4(5)571-579	Original Article
58	Noda M, Masuda T, Ito S 他	消化器外科	Circulating PD-1 mRNA in Peripheral Blood is a Potential Biomarker for Predicting Survival of Breast Cancer Patients.	Ann Surg Oncol 2020 Oct, 27(10)4035-4043	Original Article
59	Akagi T, Inomata M, Fujishima H 他	消化器外科	Preoperative chemoradiotherapy versus surgery alone for advanced low rectal cancer: a large multicenter cohort study in Japan	Surg Today 2020, Jun 50(11)1507-1514	Original Article
60	Akagi T, Endo H, Inomata M 他	消化器外科	Clinical impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System (ESSQS) by Japan Society for Endoscopic Surgery (JSES) for laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection based on the National Clinical Database	Ann Gastroenterol Surg 2020 Aug, 4(6)721-734	Original Article
61	Fujinaga A, Iwashita Y, Tada K 他	消化器外科	Efficacy of releasing impacted gallstones after percutaneous transhepatic gallbladder drainage for acute cholecystitis and consideration of the surgical difficulty during	J Hepatobiliary Pancreat Sci 2020 Oct 31. Online ahead of print.	Original Article
62	Ninomiya S, Fujita S, Ogawa T 他	消化器外科	Incarcerated femoral hernia treated with elective totally extraperitoneal repair: a case report	J Surg Case Rep 2020 Jun. Open Access	Case report
63	Fujinaga A, Shibata T, Etoh T 他	消化器外科	Laparoscopic transhiatal surgery for an epiphrenic esophageal diverticulum derived from a jackhammer esophagus: a case report	Surg Case Rep 2020 Jun, 6(1) Open Access	Case report

64	Jianwei Ma, Akagi T, Etoh T 他	消化器外科	Quadruple advanced synchronous colorectal cancers successfully treated by laparoscopic surgery: a case report	J Surg Case Rep 2020 Aug. eCollection	Case report
65	Inomata M	消化器外科	Which Approach Is Better for Minimally Invasive Surgery	JMA J 2021 Jan, 4(1)63-64	Review
66	Ueda Y, Shiraishi N, Kawasaki T 他	消化器外科	Short-and long-term outcomes of laparoscopic surgery for colorectal cancer in the elderly aged over 80 years old versus non-elderly: a retrospective cohort study	BMC Geriatr 2020 Nov, 20(1), 445	Original Article
67	Ueda Y, Fujishima H, Masuda T, 他	消化器外科	Clinical Impact of Clinicopathological Characteristics of Undifferentiated Advanced Gastric Cancer in Elderly Patients	Gerontology & Geriatric Research 2020 May, 2(1), 2-7	Original Article
68	Shibata T, Tsukamoto N, Fukuda H 他	救命救急科	Successful treatment of left subclavian artery penetration due to ingestion of a safety pin by an elderly person	Acute Med Surg 2020 Jun 11;7(1):e526	Case report
69	Takeuchi H, Noda D, Abe M 他	乳腺外科	Evaluating the Platelet Distribution Width-to-Plateletcrit Ratio as a Prognostic Marker for Patients With Breast Cancer.	Anticancer Res. 2020 Jul.40(7):3947-3952.	Original Article
70	Abe M, Osoegawa A, Miyawaki M 他	呼吸器外科	Ciliated muconodular papillary tumor of the lung: a case report and literature review.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Nov.68(11):1344-1349.	Case report
71	Noda D, Abe M, Takumi Y 他	呼吸器外科	Resection and postoperative radiation therapy for desmoid fibromatosis of the chest wall in a young woman.	Surg Case Rep. 2021 Jan.7(1):28.	Case report
72	Fujiki M, Yee KM, Steward O	脳神経外科	Non-invasive High Frequency Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation (hfrTMS) Robustly Activates Molecular Pathways Implicated in Neuronal Growth and Synaptic Plasticity in Select	Front Neurosci. 2020 Jun 16;14:558.	Original Article
73	Fujiki M, Kawasaki Y, Fudaba H	脳神経外科	Continuous Theta-Burst Stimulation Intensity Dependently Facilitates Motor-Evoked Potentials Following Focal Electrical Stimulation of the Rat Motor Cortex.	Front Neural Circuits. 2020 Sep 29;14:585624.	Original Article
74	Fudaba H, Momii Y, Matsuta H 他	脳神経外科	Perfusion Parameter Obtained on 3-Tesla Magnetic Resonance Imaging and the Ki-67 Labeling Index Predict the Overall Survival of Glioblastoma.	World Neurosurg. 2021 Feb 7:S1878-8750(21)00183-2.	Original Article
75	Nagai Y, Anan M, Fujiki M	脳神経外科	Cerebral Arteriovenous Malformations as Acquired Lesions: Case Reports and Review of the Literature.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 Oct;29(10):105157.	Review
76	Anan M, Nagai Y, Fudaba H 他	脳神経外科	Lactate and Lactate Dehydrogenase in Cistern as Biomarkers of Early Brain Injury and Delayed Cerebral Ischemia of Subarachnoid Hemorrhage.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2020 May;29(5):104765.	Original Article
77	Kawasaki Y, Uchida S, Onishi K 他	脳神経外科	Pediatric nondura-based clear cell meningioma of the cauda equina: case report and review of literature.	Br J Neurosurg. 2020 Apr;34(2):215-218	Review
78	Fudaba H, Momii Y, Kawasaki Y 他	脳神経外科	Well-differentiated Astroblastoma with Both Focal Anaplastic Features and a Meningioma 1 Gene Alteration.	NMC Case Rep J. 2020 Sep 16;7(4):205-210.	Case report
79	Fudaba H, Momii Y, Hirakawa T 他	脳神経外科	Sialic acid-binding immunoglobulin-like lectin-15 expression on peritumoral macrophages is a favorable prognostic factor for primary central nervous system lymphoma patients.	Sci Rep. 2021 Jan 13;11(1):1206.	Original Article

80	Anan M, Nagai Y, Matsuda T 他	脳神経外科	Trauma may affect vasa vasorum to promote thrombosis and enlargement of intracranial aneurysms: A case report.	Surg Neurol Int. 2021 Jan 13;12:16.	Case report
81	Onishi K, Uchida S, Fudaba H 他	脳神経外科	Posterior reversible encephalopathy syndrome and spinal extradural hematoma in an elderly patient	Neurosurgery 2021 Feb 14; 14: 1111	Case report
82	Sakai T, Matsuda- Hirose H, Shimada H 他	皮膚科	Generalized pustular psoriasis-like drug eruption manifested by systemic glucocorticosteroid in a patient without IL36RN mutation or an immunological disorder	Eur J Dermatol 2020 Apr 1;30(2):183-184.	Case report
83	Sho Y, Sakai T, Yamate T 他	皮膚科	Unusual congenital syringocystadenoma papilliferum on the scalp presenting as only erosion at birth	Eur J Dermatol 2020 Apr 1;30(2):198-199.	Case report
84	Matsuda- Hirose H, Takeo N, Ando M 他	皮膚科	Dupilumab treatment of a case of asthma, chronic rhinosinusitis, and atopic dermatitis after initial benralizumab administration.	J Cutan Immunol Allergy 2020 Jun 3(4)91-93	Case report
85	Sakai T, Nadine Herrmann, Laura Maint 他	皮膚科	Sphingosine-1-phosphate in serum increased and correlated with severity and inflammation in human atopic dermatitis	World Immune Regulation Meeting XIV (4-7 October 2020, [Digital], Davos, Switzerland)	Others
86	Sho Y, Sakai T, Sato T 他	皮膚科	The correlation between ceramide profile and the effectiveness of ceramide care on remission of skin symptoms of atopic dermatitis patients	The 45th Annual Meeting of The Japanese Society for Investigative Dermatology (11-13 December 2020, [Online].	Others
87	Sakai T, Herrmann N, Maintz L 他	皮膚科	Serum sphingosine-1-phosphate is elevated in atopic dermatitis and associated with severity	Allergy 2021 Mar/Online ahead of print.	Letter
88	Nakada C, Hijiya N, Tsukamoto Y 他	腎臓外科・泌尿器科	A transgenic mouse expressing miR-210 in proximal tubule cells shows mitochondrial alteration: possible association of miR-210 with a shift in energy metabolism	J Pathol. 2020 May;251(1):12-25	Original Article
89	Suzuki H, Shin T, Fukasawa S 他	腎臓外科・泌尿器科	Efficacy and safety of abiraterone acetate plus prednisone in Japanese patients with newly diagnosed, metastatic hormone-naïve prostate cancer: final subgroup analysis of LATITUDE, a randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 3 study	Jpn J Clin Oncol. 2020 Jul 9;50(7):810- 820.	Original Article
90	Mizoguchi S, Mori K, Shin T 他	腎臓外科・泌尿器科	Effects of dutasteride in a rat model of chemically induced prostatic inflammation-Potential role of estrogen receptor β	Prostate 2020 Dec;80(16):1413-1420	Original Article
91	Shin T, Sato R, Shibuya T 他	腎臓外科・泌尿器科	Adult-onset Skene's gland cyst following a history of multiple gynecological treatment interventions	Urol Case Rep 2021 Jan 28;36:101586.	Case report
92	Shinohara M, Shin T, Shibuya T 他	腎臓外科・泌尿器科	Laparoscopic ileal ureteral replacement to preserve the natural antivesicoureteral reflux system:An initial case report.	IJU Case Rep 2021 Feb, 4:132-135.	Case report
93	Iwasaki K, Shin T, Inoue T 他	腎臓外科・泌尿器科	Only 3 cycles of nivolumab showed remarkable durable response and reversible myeloradiculoneuropathy in a patient with metastatic papillary renal cell carcinoma type 2;a case report	IJU Case Rep 2021 Feb, 4:139-142.	Case report

94	Hata S, Shin T, Abe S 他	腎臓外科・泌尿器科	Degarelix as a neoadjuvant hormonal therapy for acute urinary tract toxicity associated with external beam radiotherapy for intermediate- and high-risk prostate cancer: a propensity score matched analysis	Jpn J Clin Oncol. 2021 Mar 3;51(3):478-483.	Original Article
95	Nakano S., Tomaru Y., Kubota T 他	眼科	Evaluation of a multiplex strip PCR test for infectious uveitis : A prospective multicenter study	Am J Ophthalmol 2020 May;213 252-259.	Original Article
96	Yatsuka H., Hada K., Shiraishi H 他	眼科	Exosc2 deficiency leads to developmental disorders by causing a nucleotide pool imbalance in zebrafish	Biochem Biophys Res Commun 2020 Apr;533(4) 1470-1476.	Original Article
97	Otsuka T, Yokoyama K, Nakamuro T 他	眼科	Effect of continuous 0.5% ganciclovir eye drop treatment in secondary glaucoma associated with cytomegalovirus anterior uveitis, Ophthalmology	Ophthalmol res Int JI 2021 Jan;14(1) 13-21.	Original Article
98	Kai K, Nasu K, Nishida H 他	産科婦人科	Correlation of World Health Organization 2010 Classification for Gastroenteropancreatic Neuroendocrine Neoplasms with the Prognosis of Ovarian Neuroendocrine Neoplasms: KCOG-G1502s/Intergroup	Neuroendocrinology 111(4):320-329. 2021 Mar	Original Article
99	Zhu R, Nasu K, Aoyagi Y 他	産科婦人科	Chemokine expression profiles of ovarian endometriotic stromal cells in three-dimensional culture.	J Reprod Immunol 2020 Apr;138: 103100.	Original Article
100	Takebayashi K, Nasu K, Okamoto M	産科婦人科	hsa-miR-100-5p, an overexpressed miRNA in human ovarian endometriotic stromal cells, promotes invasion through attenuation of SMARCD1	Reprod Biol Endocrinol 2020 Apr; 18 (1): 31	Original Article
101	Mizoguchi C, Matsumoto H, Nasu K 他	産科婦人科	Collision tumour of endometrial stromal sarcoma, uterine tumour resembling ovarian sex-cord tumour, and leiomyoma	Eur. J. Gynaecol. Oncol. 2020 Aug;41(4) :634-637	Case report
102	Oishi T, Nishida M, Takebayashi K 他	産科婦人科	Small-cell carcinoma of the uterine cervix discovered with quadriplegia caused by cervical spine metastasis	Clin Med Insights Case Rep 2020 May; 13: 1-4	Case report
103	Yano M, Aso S, Sato M 他	産科婦人科	Pembrolizumab and Radiotherapy for Platinum-refractory Recurrent Uterine Carcinosarcoma With an Abscopal Effect: A Case Report.	Anticancer Res. 2020 Jul;40(7):4131-4135.	Case report
104	Kai K, Aoyagi Y, Nishida M 他	産科婦人科	Port-site implantation of parasitic leiomyoma after laparoscopic myomectomy and its histopathology.	SAGE Open Med Case Rep. eCollection 2020 Sep.	Case report
105	Otani N, Ouchi M, Kudo H 他	臨床薬理センター	Recent approaches to gout drug discovery: an update.	Expert Opin Drug Discov 2020 Aug;15(8):943-954.	Original Article
106	Imai H, Morita M, Morita H 他	臨床薬理センター	The μ -opioid receptor gene polymorphism 118A>G weakens the pharmacological action of buprenorphine	Int J Clin Pharmacol Ther. 2020 Nov;58(11):626-633	Original Article
107	Kawamura K, Daa T, Kawano K 他	歯科口腔外科	Activation of the RAS/ERK signaling pathway by RASAL1 and its clinical significance in squamous cell carcinomas of the tongue.	J Oral Maxillofac Surg Med Pathol 2020 Sep;32(5):400-405	Original Article
108	Kadowaki Y, Hirano T, Fujita K 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Phase variation with altering Phosphorylcholine expression of nontypeable Haemophilus influenzae affects bacteria clearance and mucosal immune response in the middle ear and nasopharynx	Auris Nasus Larynx 2021 Feb;48,57-64,2021	Original Article

109	Wada Y, Kushima R, Kodama M 他	消化器内科	Histological changes associated with pyloric and pseudopyloric metaplasia after Helicobacter pylori eradication	Virchows Arch 2020 Oct;477(4):489-496	Original Article
110	Mizukami K, Katsuta M, Okamoto K 他	消化器内科	Influence of acotiamide on 13C-urea breath test for Helicobacter pylori diagnosis	J Clin Biochem Nutr 2020 Nov;67(3):332-337	Original Article
111	Kinoshita K, Matsunari O, Sonoda A 他	消化器内科	A case of the lower gastrointestinal bleeding due to Dieulafoy's ulcer in the cecum	Clin J Gastroenterol 2020 Aug;13(4):564-567	Case report
112	Sato Y, Okamoto K, Fukuda M 他	消化器内科	An Autopsy Case of Acute Pancreatitis Caused by Cholesterol Crystal Embolization	Intern Med 2021 Mar. Volume 60 Issue 6 Pages 839-845	Case report
113	Tsutsumi K, Kato M, Kakushima N 他	消化器内科	Efficacy of endoscopic preventive procedures to reduce delayed adverse events after endoscopic resection of superficial nonampullary duodenal epithelial tumors: a meta-analysis of observational comparative trials	Gastrointest Endosc 2021 Feb;93(2):367-374.e3.	Original Article
114	Kinoshita K, Fukuchi S, Fukuda K 他	消化器内科	A case of dengue fever that should be considered as imported infectious disease with digestive symptoms	Clin J Gastroenterol 2021 Mar 25	Case report
115	Tokoro M, Gotoh K, Kudo Y 他	消化器内科	α -Tocopherol suppresses hepatic steatosis by increasing CPT-1 expression in a mouse model of diet-induced nonalcoholic fatty liver disease	Obes Sci Pract. 2020 Oct 13;7(1):91-99.	Original Article
116	Iwao M, Gotoh K, Arakawa M 他	消化器内科	Supplementation of branched-chain amino acids decreases fat accumulation in the liver through intestinal microbiota-mediated	Sci Rep. 2020 Oct 30;10(1):18768.	Original Article
117	Hironaka S, Komori A, Machida R 他	腫瘍内科	The association of primary tumor site with acute adverse event and efficacy of definitive chemoradiotherapy for cStage II/III esophageal cancer: an exploratory analysis of JCOG0909	Esophagus. 2020 Oct;17(4):417-424	Original Article
118	Mori K, Kozaki S, Anai H 他	心臓血管外科	Gorget-like Cuddling Suture: An Anastomosis Reinforcement Technique to Reduce Suture Bleeding for Aortic Surgery	Ann Vasc Surg 2020 Aug. 67:553-556.	Original Article
119	Kawashima T, Okamoto K, Wada T 他	心臓血管外科	Femoral artery anatomy is a risk factor for limb ischemia in minimally invasive cardiac surgery	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Jul. 69(2):246-253.	Original Article
120	Umeno T, Shuto T, Anai H 他	心臓血管外科	Pseudoaneurysm of the Left Common Carotid Artery With Neurofibromatosis Type 1	Vasc Endovascular Surg 2020 Aug. 54(6):549-552.	Case report
121	Kawashima T, Hatori K, Mizoguchi T 他	心臓血管外科	In vitro evaluation of the hemostatic effect of method involving the combined use of Hydrofit® and Spongel®	Gen Thorac Cardiovasc Surg 2020 Sep.68(9):932-937.	Original Article
122	Teshima Y, Shiga R, Saito S 他	循環器内科	Potential Risk of Hypoglycemia in Patients with Heart Failure	Int Heart J. 2020 Jul.61(4):776-780.	Original Article
123	Yufu K, Abe I, Kondo H 他	循環器内科	Distinctively different predictors for long-term outcomes between responders and nonresponders who underwent cardiac resynchronization	J Arrhythm. 2020 Nov.37(1):173-181.	Original Article

124	Shinohara T, Takahashi N, Mukai Y 他	循環器内科	Changes in plasma concentrations of edoxaban and coagulation biomarkers according to thromboembolic risk and atrial fibrillation type in patients undergoing catheter ablation: Subanalysis of KYU-RABLE	J Arrhythm. 2020 Dec.37(1):70-78	Original Article
125	Abe I, Miyoshi M, Fukuda T 他	循環器内科	Fractured Sternal Wire With Distal Migration and Penetration of the Right Ventricle	Circ J. 2020 Oct.84(11):2032	Original Article
126	Abe I, Wang P, Takahashi M 他	循環器内科	Familial sick sinus syndrome possibly associated with novel SCN5A mutation diagnosed in pregnancy	HeartRhythm Case Rep. 2020 Nov.7(2):117-122.	Original Article
127	Kira S, Abe I, Ishii Y 他	循環器内科	Role of angiotensin-like protein 2 in atrial fibrosis induced by human epicardial adipose tissue: Analysis using an organo-culture system	Heart Rhythm. 2020 Sep.17(9):1591-1601	Original Article
128	Miyoshi M, Kondo H, Ishii Y 他	循環器内科	Baroreflex Sensitivity in Patients With Atrial Fibrillation	J Am Heart Assoc. 2020 Dec.9(24):e018019	Original Article
129	Zhan Y, Abe I, Nakagawa M 他	循環器内科	A traditional herbal medicine rikkunshito prevents angiotensin II-Induced atrial fibrosis and fibrillation	J Cardiol. 2020 Dec.76(6):626-635.	Original Article
130	Shinohara T, Abe I, Hirota K 他	循環器内科	Usefulness of subcutaneous implantable cardioverter-defibrillator therapy in patients with Brugada syndrome	Heart Vessels. 2021 Feb.36(2):260-266	Original Article
131	Shinohara T, Takagi M, Kamakura T 他	循環器内科	Risk stratification in asymptomatic patients with Brugada syndrome: Utility of multiple risk factor combination rather than programmed electrical	J Cardiovasc Electrophysiol. 2021 Feb.32(2):507-514	Original Article
132	Abe I, Terabayashi T, Hanada K 他	循環器内科	Disruption of actin dynamics regulated by Rho effector mDia1 attenuates pressure overload-induced cardiac hypertrophic responses and	Cardiovasc Res. 2021 Mar.117(4):1103-1117	Original Article
133	Christopher Silman, Matsumoto S, Yamada Y 他	放射線科	Evaluation of juxtapaillary duodenal diverticula using multiplanar reformation in MDCT: correlation with ERCP findings	Jpn J Radiol. 2020 Oct.38(10):968-972	Original Article
134	Kaku N Shimada T Nogami R 他	整形外科	Histological evaluation of the acetabular labrum after bipolar hip hemiarthroplasty: a case report	Med Mol Morphol 2020 Sep.53(3):183-189	Case report
135	Tanaka K Kawano M Iwasaki T 他	整形外科	Surrogate endpoints for overall survival in randomised controlled trials of localised osteosarcoma: A meta-analytic evaluation	Sci Rep 2020 May.10(1):8573.	Original Article
136	Kaku N Tanaka A Tagomori H 他	整形外科	Finite Element Analysis of Stress Distribution in Flat and Elevated-Rim Polyethylene Acetabular Liners	Clin Orthop Surg 2020 Sep.12(3):291-297	Original Article
137	Abe T Miyazaki M Ishihara T 他	整形外科	Analysis of the risk factors for increasing cervical sagittal vertical axis after cervical laminoplasty for cervical spondylotic myelopathy	Arch Orthop Trauma Surg. 2020 Oct	Original Article
138	Miyazaki M Abe T Ishihara T 他	整形外科	Cervical alignment after single-level anterior cervical corpectomy and fusion using autologous bone graft without spinal instrumentation for cervical pyogenic spondylitis	Eur J Orthop Surg Traumatol 2020 Apr.30(3):479-484	Original Article

139	Tanaka K Kawano M Iwasaki T 他	整形外科	A meta-analytic evaluation of the correlation between event-free survival and overall survival in randomized controlled trials of newly diagnosed Ewing sarcoma	BMC Cancer 2020 May;20(1):379.	Original Article
140	Miyazaki M Ishihara T Abe T 他	整形外科	Analysis of reciprocal changes in upper cervical profiles after posterior spinal fusion with the simultaneous double rod rotation technique for adolescent idiopathic scoliosis	Orthop Traumatol Surg Res 2020 Nov;106(7):1275-1279	Original Article
141	Tanaka K Iwasaki T Kawano M 他	整形外科	Osteomyelitis of the Distal Phalanx of the Thumb due to Parvimonas micra and Fusobacterium nucleatum: A Case Report	Open Forum Infect Dis 2020 Aug;7(8):ofaa330	Case report
142	Miyazaki M Ishihara T Abe T 他	整形外科	Analysis of the reciprocal changes in upper cervical profile and the risk factors for increasing cervical sagittal vertical axis after laminoplasty for ossification of the posterior longitudinal ligament of the cervical spine	Clin Neurol Neurosurg 2020 Jul;194:105788.	Case report
143	Ogata M, Uchida N, Fukuda T 他	輸血部	Clinical practice recommendations for the diagnosis and management of human herpesvirus-6B encephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.	Bone Marrow Transplant. 2020 Jun;55(6):1004-1013.	Review
144	Suzuki K, Sato Y, Nakahara R 他	薬剤部	Venous thromboembolisms and rheology in ovarian cancer patients after postoperative adjuvant paclitaxel and carboplatin therapy.	Pharmazie 2020 May 1;75(5):205-207.	Original Article
145	Iwao M, Suzuki Y, Tanaka R 他	薬剤部	Sensitive and selective quantification of mid-regional proadrenomedullin in human plasma using ultra-performance liquid chromatography coupled with tandem mass spectrometry.	J Pharm Biomed Anal 2020 May 10;183:113168.	Original Article
146	Tanaka R, Imafuku T, Suzuki Y 他	薬剤部	Changes in redox state of albumin before and after kidney transplantation in patients with end-stage renal disease.	Clin Biochem 2020 Jul;81:20-26.	Original Article
147	Tsushita H, Tanaka R, Suzuki Y 他	薬剤部	Effects of dose and type of corticosteroids on the divergence between estimated glomerular filtration rates derived from cystatin c and creatinine.	J Clin Pharm Ther 2020 Dec;45(6):1390-1397.	Original Article
148	Tanaka R, Fujioka T, Suzuki Y 他	薬剤部	A prospective study on the usefulness of initial voriconazole dose adjustment based on CYP2C19 gene polymorphism analysis.	Chemotherapy 2020 Sep;65(3-4):59-64.	Original Article
149	Nonoshita K, Suzuki Y, Tanaka R 他	薬剤部	Population pharmacokinetic analysis of doripenem for Japanese patients in intensive care unit.	Sci Rep 2020 Dec 17;10(1):22148.	Original Article
150	Tanaka R, Kai M, Goto K 他	薬剤部	High-throughput and wide-range simultaneous determination of linezolid, daptomycin and tedizolid in human plasma using ultra-performance liquid chromatography coupled to tandem mass spectrometry.	J Pharm Biomed Anal 2021 Feb 5;194:113764.	Original Article
151	Shiraiwa K, Suzuki Y, Uchida H 他	薬剤部	Simultaneous quantification method for 5-FU, uracil, and tegafur using UPLC-MS/MS and clinical application in monitoring UFT/LV combination therapy after hepatectomy.	Sci Rep 2021 Feb 4;11(1):3132.	Original Article
152	Tanaka R, Suzuki Y, Matsumoto H 他	薬剤部	Significant elevation of free itraconazole concentration at onset of adverse effects: a case report.	Clin Case Rep 2021 Jan 14;9(3):1187-1192.	Case report

153	Shiraiwa K, Ono H, Tanaka R 他	薬剤部	Effect of S-1 on blood levels of phenobarbital and phenytoin: A case report.	Clin Case Rep 2021 Feb 4;9(3):1514-1517.	Case report
-----	--	-----	--	---	-------------

小計 1
計 153

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 目的、定義、対象者、対象事象、審査する委員会に関する事項（審議事項、組織、任期、委員長、委員会の開催要件、委員以外の出席、審査手続き、審査内容、調査方法、概念の啓蒙、守秘義務）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 20 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合はその主なポイントの解説を行っている。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

呼吸器内科臨床研修プログラム
内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム
リウマチ・膠原病内科専門医育成プログラム 他28件

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	92.55	人
-------------	-------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平松 和史	呼吸器・感染症内科	教授	33年	
柴田 洋孝	内分泌・糖尿病内科	教授	32年	
柴田 洋孝	膠原病内科	教授	32年	
柴田 洋孝	腎臓内科	教授	32年	
松原 悦朗	脳神経内科	教授	35年	
村上 和成	消化器内科	教授	37年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	32年	
廣中 秀一	血液内科	准教授	26年	
廣中 秀一	腫瘍内科	准教授	26年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	36年	
寺尾 岳	精神科	教授	35年	
井原 健二	小児科	教授	31年	
猪股 雅史	消化器外科	教授	32年	
杉尾 賢二	呼吸器外科	教授	38年	
杉尾 賢二	乳腺外科	教授	38年	
宮本 伸二	心臓血管外科	教授	36年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	34年	
津村 弘	整形外科	教授	39年	
清水 史明	形成外科	講師	21年	
波多野 豊	皮膚科	教授	28年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	37年	
久保田 敏昭	眼科	教授	38年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科	教授	36年	
河野 康志	産科婦人科	診療教授	32年	
浅山 良樹	放射線科	教授	27年	
北野 敬明	麻酔科	教授	36年	
坂本 照夫	救命救急科	教授	43年	
片岡 晶志	リハビリテーション科	診療教授	33年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	35年	
駄阿 勉	病理診断科・病理部	教授	33年	
上村 尚人	臨床薬理センター	教授	29年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

（看護部）

- ・看護師向け段階別研修：期間、実施回数、参加人数は別紙のとおり
- ・看護管理者向けマネジメントラダーⅠ研修：期間、実施回数、参加人数は別紙のとおり
- ・看護管理者向けマネジメントラダーⅢ研修：期間、実施回数、参加人数は別紙のとおり
- ・看護師長管理者研修：「概念化スキル向上トレーニングフォローアップ」

令和3年2月9日～令和3年2月10日9：00～16：00 参加者：看護師長27名

（放射線部）

(1) 放射線業務従事者教育訓練講習会

⇒放射線管理区域に入って放射線診療を行う者(新規対象者)ならびに更新者に対して、法令に基づき教育訓練研修を受ける必要がある。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からe-learning形式で開催した。

- ・令和2年7月29日から令和3年3月12日(新規) 参加者：130名
- ・令和2年10月2日から令和3年3月22日(更新) 参加者：287名(訓練省略者54名含む)

(2) 放射線技師室研修

⇒診療放射線技師対象の部内研修

- ・令和2年5月14日 透視検査業務研修(EBUSの解説) 参加者：25名
- ・令和2年5月28日 英語論文研修 参加者：24名
- ・令和2年6月25日 一般撮影業務研修(胸部X線写真の基礎) 参加者：24名
- ・令和2年7月9日 医療情報関連研修(クラウド型PACSについて) 参加者：16名
- ・令和2年8月13日 英語論文研修 参加者：16名
- ・令和2年9月24日 英語論文研修 参加者：23名
- ・令和2年9月24日 医療機器最新情報(CT装置) 参加者：23名
- ・令和2年10月14日 医療機器最新情報(CT装置) 参加者：15名
- ・令和2年10月16日 医療機器最新情報(CT装置) 参加者：10名
- ・令和2年10月22日 医療機器最新情報(CT装置) 参加者：14名
- ・令和2年11月5日 患者被ばく線量管理システム研修 参加者：18名
- ・令和3年2月5日 医療機器最新情報(CT装置) 参加者：15名
- ・令和3年2月15日 医療安全研修(造影剤に関するセミナー) 参加者：15名
- ・令和3年2月25日 英語論文研修 参加者：19名
- ・令和3年3月19日 医療安全・撮影技術研修(造影剤理論) 参加者：15名
- ・令和3年3月25日 一般撮影業務研修(脊椎撮影の解説) 参加者：24名

（ME機器センター）

- ・メディカルスタッフ新採用者オリエンテーション：4月2日、93名
医療機器の安全使用を目的に全般の注意事項に関する内容

- ・看護部 ME機器研修：5月1日～e-learning, 64名
新入職者を対象に医療機器の安全使用、一般病棟で使用する人工呼吸器等の生命維持管理装置、輸液ポンプやセントラルモニタに関する内容
- ・ME機器講習会：9月 e-learning, 1099名・2月 elearning, 1047名
全職員を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容
- ・各種の医療機器研修会：48回
各種医療機器の原理や適応、操作方法、インシデント事例・注意事項、トラブルシューティング等の内容

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

（薬剤部）

- ・研修の主な内容
新採用者オリエンテーションにより、本院において医療業務に携わる上で、各職員が必ず修得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。
- ・研修の期間・実施回数
令和2年4月1日（水）、4月2日（木）
- ・研修の参加人数
92名

（放射線部）

(1) 特定機能病院における定期研修

⇒安全使用に際して技術の習熟が必要と考える医療機器に関しての研修を、年2回程度定期的に実施することが義務付けられている。放射線部では放射線治療（リニアック）と密封小線源治療（¹⁹²Ir）が該当する。

1) 第33回高精度放射線外部照射学会

- ・令和2年5月8日～5月14日 参加者：2名

2) 日本放射線技術学会第80回放射線治療部会

- ・令和2年5月15日～6月14日 参加者：8名

3) 第119回日本医学物理学会学術大会教育講演

- ・令和2年5月15日～6月14日 参加者：1名

4) 2020医学物理士ミニマム講習会

- ・令和2年6月6日～6月20日 参加者：1名
- ・令和2年7月4日～7月18日 参加者：1名

5) 第143回放射線治療かたろう会

- ・令和2年8月1日 参加者：1名

6) 2020年度医学物理士セミナー

- ・令和2年8月8日～8月22日 参加者：1名

7) 第9回JBMP放射線治療品質管理・医学物理講習会

- ・令和2年11月7日 参加者：1名

8) リニアック安全取扱講習

- ・令和2年12月15日 参加者：9名
- 9) マイクロセレクトロン安全使用講習会
 - ・令和2年12月22日 参加者：9名
- 10) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定第14回関西地区統一講習会（基礎コース）
 - ・令和3年1月1日～1月31日 参加者：3名
- 11) 第30回放射線治療品質管理士講習会
 - ・令和3年1月21日～1月29日 参加者：6名
- 12) 第19回九州放射線治療システム研究会
 - ・令和3年1月30日 参加者：2名
- 13) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定第15回関西地区統一講習会（応用コース）
 - ・令和3年2月1日～2月28日 参加者：4名
- 14) 令和2年度実践的放射線治療人材育成セミナー Python講習会・初級編
 - ・令和3年2月14日 参加者：1名
- 15) 第14回南九州地域放射線治療合同研究会
 - ・令和3年2月27日 参加者：2名
- 16) 日本放射線治療専門放射線技師認定機構認定第16回関西地区統一講習会（安全管理コース）
 - ・令和3年3月1日～3月31日 参加者：5名

(2) 新しい医療機器の導入時の研修

⇒医療用装置や機器を新しく導入する際は、当該医療機器を使用する者に対する研修を行う必要がある。令和2年度では以下の研修を行った

- 1) CT装置（Aquilion Genesis）導入時研修
 - ・令和3年2月26日 参加者：26名
- 2) ffr-CT導入時研修会
 - ・令和3年3月11日 参加者：20名
- 3) CT装置（Aquilion PRISM）導入時研修
 - ・令和3年3月31日 参加者：26名

(3) コ・メディカル新採用者オリエンテーション

⇒新規採用となったコ・メディカル職員に対し、「放射線と放射線防護の理解」について講義研修を実施した。

- ・令和2年4月1日 参加者：92名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

令和2年度 看護部 研修開催実績

	研修名	日程	参加数
	新人看護職員研修		
1	新人看護職員研修 ME機器研修	2020/04/30~2020/05/01	55
2	新人看護職員研修 薬の知識	2020/05/08	64
3	新人看護職員研修 褥瘡予防	2020/05/15	63
4	新人看護職員研修 抗がん剤曝露対策	2020/05/15	63
5	新人看護職員研修 技術研修②	2020/05/23~2020/05/24	54
6	新人看護職員研修 リフレッシュ研修	2020/05/30	54
7	新人看護職員研修 技術研修③	2020/06/20,他	53
8	新人看護職員研修 1Rフォローアップ	2020/07/02~2020/07/03	53
9	新人看護職員研修 感染管理	2020/09/07,他	58
10	新人看護職員研修 医療安全管理	2020/09/14,他	58
11	新人看護職員研修 2Rフォローアップ	2020/10/08~2020/10/09	49
12	新人看護職員研修 手術室研修	2020/8~10のうち3日間	50
13	新人1年目フォローアップ	2021/02/04~2021/02/05	50
			724
	レベルⅠ研修		
14	既卒者プログラム フォローアップ①	2020/04/30	7
15	既卒者プログラム ME機器研修	2020/04/30	10
16	既卒者プログラム 薬の知識	2020/05/08	9
17	既卒者プログラム 褥瘡予防研修	2020/05/15	8
18	既卒者プログラム BLS研修	2020/07/02	8
19	既卒者プログラム フォローアップ③	2020/09/14	7
20	看護過程Ⅰ研修	2020/08/27,他	55
21	マネジメントⅠ研修	2020/08/07,他	54
22	コミュニケーション研修基礎編	2020/12/10,他	52
23	静脈注射研修	2021/01/16	50
			260
	レベルⅡ研修		
24	看護過程Ⅱ研修	2020/09/24,他	37
25	マネジメントⅡ研修	11/5他	51
26	感染管理レベルⅡ研修	2020/07/14,他	65
27	医療安全管理レベルⅡ研修	2020/07/14,他	65
28	実地指導者研修(3回シリーズ)	2020/04/23,他	19
			237
	レベルⅢ研修		
29	リフレクティブ研修	2020/04/16,他	10
30	リフレクティブ研修1年目フォローアップ	2021/03/11	10
31	マネジメントⅢ研修	5/14他	21
32	感染管理レベルⅢ研修	2020/09/18,他	30
33	医療安全管理レベルⅢ研修	2020/10/15,他	32
34	教育担当者研修(3回シリーズ)	2020/06/11,他	15
35	事例検討ペナー看護論研修	2021/01/14	25
			143
	レベルⅠ取得者以上		
36	フィジカルアセスメントレベルⅠ	2020/10/21	66
	レベルⅡ取得者以上		
37	災害看護研修	2020/06/15	25
38	看護倫理研修	2020/07/27	26
39	院内認定 食支援☆	2020/08/12	6
			57
	看護助手研修		
40	看護助手フォローアップ研修	2020/09/29	35
41	看護助手技術研修	2020/08/17,他	33
42	夜間 看護助手BLS研修	2021/01/28	11
43	看護助手BLS他研修	2021/01/28,他	35
			114
	自主研修		
44	自主研修 論理的思考研修	2020/05/09	11
45	自主研修 老年看護研修(1日コース)	2021/02/24	8
46	自主研修 認知症看護	2020/11/20	45
47	自主研修 がん看護	2020/11/27	22
48	自主研修 慢性心不全看護	2021/01/18	18
49	自主研修 フィジカルアセスメントレベルⅡ	2020/10/22	14
50	自主研修 がん化学療法看護	2020/10/19	15
51	自主研修 脳卒中リハビリテーション看護	2020/09/25	11
52	自主研修 集中ケアⅡ(人工呼吸器装着中の)	2020/08/17	41
53	自主研修 コミュニケーションスキル研修	2019/12/27	10
54	自主研修 糖尿病看護Ⅰ研修	2020/05/29	26
55	自主研修 緩和ケア	2020/07/13	34

(案)令和2年度 マネジメントラダーレベル I 研修計画

研修目標 昇任1年目副看護師長 ■昇任2年目副看護師長 □昇任3年目副看護師長

研修日時			研修名		人数
研修日	時間	時間数			
3月5日	8:30~12:00	3日	組織管理	①看護組織論 ⑤目標管理	4
	13:00~17:15		教育・研究・自己啓発	①看護師のキャリア開発・支援	4
3月19日	8:30~17:15		組織管理	③労務管理	4
3月23日	8:30~15:20		看護の質評価・改善	①看護サービス提供論 ②看護管理指標 ④医療経営	4
	15:30~17:15		まとめ		4
5月29日 各所	17:15~18:15	1時間	組織管理	⑤目標管理	4
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②目標管理	9
■各部署					
7月27日 ■多目的室	8:30~10:00	1.5時間	組織管理	⑦感染管理	3
	10:10~11:40	1.5時間	組織管理	⑥医療安全管理	3
	13:00~14:30	1.5時間	組織管理	⑧災害対策	3
8月31日 ■会議室					
9月30日 各所	17:15~18:15	1時間	組織管理	⑤目標管理	4
	17:15~18:15	1時間	組織管理	⑤目標管理	9
12月21日 ■会議室	8:30~10:00	1.5時間	組織管理	⑥医療安全管理	9
	10:10~11:40	1.5時間	教育・研究・自己啓発	③自己啓発への取り組み	9
11月4日 (水)	看護協会研修で置き換え	1.5時間	人間関係ラダーⅢ合同	③コンフリクトマネジメント	
2月8日 各所	17:15~18:15	1時間	組織管理	⑤目標管理	4
	17:15~18:15	1時間	組織管理	⑤目標管理	9
3月4日 ZOOM開催	8:30~17:15 (休憩を含む)	1日	組織管理	⑤目標管理	4
	8:30~17:15 (休憩を含む)	1日	組織管理	⑤目標管理	9

(案1)令和2年度 マネジメントラダーレベルⅢ 研修計画

研修目標 1年目昇任看護師長 □2年目昇任看護師長 ■3年目昇任看護師長

研修日時			研修名		人数
研修日	時間	時間数			
3月5、12日、 23日 ■会議室	8:30~17:15	3日	組織管理	①看護組織論 ②⑦目標管理	2
			組織管理	④労務管理	2
			看護の質評価・改善	①看護サービス提供論 ②看護管理指標	2
			教育・研究・自己啓発	①看護師のキャリア開発・支援	2
5月15日 ■会議室	16:00~17:30	1.5時間	組織管理	⑤人事考課	4
5月26日 各所	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	2
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	6
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	2
■各部署	8:30~17:15 (休憩を含む)	1日	組織管理	⑤目標管理	6
8月31日 ■多目的室	13:00~14:30	1.5時間	人間関係ラダー I合同	②ストレスマネジメント	6
	14:40~16:10	1.5時間	組織管理	⑥医療経営	6
9月28日 各所 □多目的室など	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	2
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	6
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	2
9月29日 ■会議室	8:30~10:00	1.5時間	人間関係	①グループマネジメント	2
	10:10~11:40	1.5時間	組織管理	③看護情報管理論	3
	13:00~14:30	1.5時間	組織管理	⑨感染管理	2
	14:40~16:10	1.5時間	組織管理	⑧医療安全管理	2
10月4日(日)	看護協会研修に置き換え	1.5時間	組織管理	⑧災害対策	
2020/6/16:申 し込み3/31まで	看護協会研修に置き換え	1.5時間	倫理	①組織倫理	
11月4日(水)	看護協会研修に置き換え	1.5時間	人間関係ラダー I 合同	③コンフリクトマネジメント(基礎編)	
	看護協会研修に置き換え	1.5時間	人間関係	④コンフリクトマネジメント(実践編)	
R2年度は開催 しない	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	2
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	6
	17:15~18:15	1時間	組織管理	②⑦目標管理	2
3月4日 ZOOM開催	8:30~17:15 (休憩を含む)	1日	組織管理	②⑦目標管理	2
	8:30~17:15 (休憩を含む)	1日	組織管理	②⑦目標管理	6
	8:30~17:15 (休憩を含む)	1日	組織管理	②⑦目標管理	2

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 三股浩光	
管理担当者氏名	診療記録管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 医療情報部長, 放射線部長, 看護部長, 各診療科長, 各診療施設長, 各課長	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	電子カルテ内
		手術記録	電子カルテ内
		看護記録	電子カルテ内
		検査所見記録	電子カルテ内
		エックス線写真	電子カルテ内
		紹介状	電子カルテ内
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ内
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進課 医事課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME機器センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME機器センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME機器センター		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	総務課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 安部功一郎		
閲覧担当者氏名	総務課長 牧 尚宣		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する基本的考え方 2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等 3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修 4. 医療事故発生時の対応 5. 医療事故等の報告及び改善策の立案 6. 院内死亡全例の報告及び検証 7. 当該指針の閲覧 8. 患者と医療従事者との間の診療情報の共有に関する基本方針 9. 患者相談に関する基本方針 10. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告、高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供等） 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 開催状況：年 13 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。 2. 医療事故の判定に関すること。 3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。 4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。 5. 医事紛争に関すること。 6. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と薬剤の適切な取扱いについて（第1回薬剤セミナー） 2. ME機器の基本的な取り扱いを身につけよう（第1回ME機器講習会） 3. 放射線部における医療安全対策—MRI検査— 4. 医薬品の適正使用について（第2回薬剤セミナー） 5. インシデント事例の原因と対策を中心に（第2回ME機器講習会） 6. 令和2年度医療安全のまとめ 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。 全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。 2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に対する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染予防対策の確立 2. 感染予防の実施，監視及び指導 3. 感染源の調査 4. 感染予防対策に関する情報の収集 5. その他感染予防に関すること 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> 1. COVID-19の診断・治療・感染対策 Up to date 2. 抗菌薬とその適正使用について 3. 呼吸器感染症の感染対策～新型コロナウイルス、インフルエンザウイルス～ 4. 術後感染予防抗菌薬の適正使用および抗MRSA薬について 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内の耐性菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な耐性菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており，注意を要する抗菌薬については届出制とし，感染制御部の介入を実施している。 3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い，標準予防策や感染対策の実施状況の確認，指導を行っている。また，各種感染症サーベイランスも行っており，定期的に報告を行っている。 4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については，病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに，感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○メディカルスタッフ新採用者オリエンテーション（対象：メディカルスタッフ新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○薬剤セミナー（医療安全管理セミナー）（対象：全職員） ○医薬品の取り扱いについて（ビデオセミナー）（対象：中途採用者） 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 （ 有・無 ） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 全病棟・部門を対象に実施し、確認内容を保管記録している。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗NMDA受容体脳炎に対するミコフェノール酸モフェチルの投与 2. T細胞性急性リンパ性白血病に対する丸山ワクチンの投与 3. 難治性乳び腹水に対するオクトレオチドの投与 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 D1ニュース（月1回発行）、薬剤部便り（月1回発行）、その他必要に応じて通知文書として院内通知している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 48 回
<p>・ 研修の主な内容：全従業者を対象としたME機器講習会（年2回）、新卒の医師・看護師の研修プログラム、新採用者のオリエンテーション、中途採用者等については電子カルテ認証登録時のビデオセミナーでは、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する内容とともに当院で不具合が発生した場合の対応やマニュアルや添付文書などの遵守すべき内容を特に周知している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ME機器講習会： 全従業者を対象に年2回実施、前期では基礎的知識や基本的な取り扱いとした内容、後期はインシデント事例や安全性情報に関連する内容等（医療材料含む）。 2. 研修プログラム： 医療機器の取り扱いに関して組み込まれており、人工呼吸器などの生命維持管理装置や除細動器、ベッドサイドモニタや輸液ポンプなどの安全性や使用方法、保守点検に関して実機を用いた実習を含めた内容。 3. 各種医療機器に関する研修会： 主に安全性や使用方法、保守点検に関してできる限り実機を用いた内容。 4. 導入時・借用時研修： 新規導入時、生命維持管理装置や中央貸出機器の代替機やデモ機の場合には導入時研修と同様に内容を実施。 5. 放射線関連： 医療法に掲げられた医療機器の安全使用のための研修として、①新しい医療機器の導入時の研修と②特定機能病院における定期研修（年2回以上）を実施している。①は、操作や取り扱いを担当するスタッフを対象として、安全使用に必要な項目について研修を行う。②は、直線加速装置（リニアック装置）、放射線照射装置（密封小線源治療）など、放射線治療業務を担当する診療放射線技師を対象として、技術・知識の習得が必要な講習会等に参加している。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 添付文書やマニュアルに記載されている保守点検に関する事項を参照し、医療機器の特性などから特に保守点検が必要と考えられるものについて、保守点検計画書を作成している。保守点検間隔については、実施の翌月から数え、12ヵ月を超えないこととしている。医療機器安全管理専門委員会にて、前期では進捗状況の報告、後期の年度末では実施状況と来年度の計画について報告・承認を得なければならない。 2. 臨床工学技士や診療放射線技師等は機種別に作成された保守点検計画書に沿って実施しそれぞれが進捗状況の把握や責任者の押印にて確認している。 3. 放射線関連：放射線部検査に使用する大型医療装置に関して、保守点検年間計画表を作成し、それに従って実施している。保守点検において、日常点検は機器日常点検表に従って実施・記録し、月ごとに管理者が確認している。定期点検は、原則製造メーカーに委託し、必要な項目について点検や調整などのメンテナンスを行う。装置毎にメンテナンスファイルを作成し、日常点検ならびに定期点検の結果を保管している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Saturne Cemented：股関節脱臼の危険性の高い症例の患者に使用する ・ Synovasure（シノヴァシュア）：感染の有無を判断できない整形外科領域の炎症性疾患、特に感染後の人工関節置換を行う際の感染治療の判断が求められる患者に使用する ・ エンボスフィア：有症状の前立腺肥大症患者で、保存的な標準的薬物療法にかかわらず尿路症状International Prostate Symptom Scoreが8点以上、QOL score3以上の患者、前立腺容 	

積100mL以上または抗血小板薬抗凝固薬服用中または出血を伴う（または出血が危惧される）患者に使用する

その他の改善のための方策の主な内容：

1. 経理課挾間調達室は供給業者に対して、物品購入契約締結後1週間以内に物品購入契約書、入札内訳書、見積書、カタログおよび添付文書とともに医療機器マスター登録書に必要事項を記入の上、提出させる。これらの情報を基に医療機器安全管理システムにて照会し、設置部門での使用実績や同一機種がなく、新規導入機器であると判断した場合には、導入時研修の必要性の有無とともに医療機器安全管理責任者に報告する。
2. 安全性情報等の収集に関する協力依頼については、安全使用のために必要な情報を製造販売業者から一元的に収集するために添付文書の改訂、自主回収・改修等の不具合情報や安全性情報について全て経営管理課に提出・報告を求める周知文書を納品時、6月・12月に供給業者に通知し、社内での周知も依頼している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>・医療安全管理責任者 医師1名（医療安全担当副院長、医療安全管理部長） ・大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第3条において、「医療安全管理責任者を置き、副院長（安全管理担当）をもって充て、医療安全管理責任者は、医療安全管理部、メディカル・リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括する。」旨規定している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>【院内の医薬品使用状況の確認】</p> <p>毎月医薬品の使用状況（使用量、5ヶ月間未使用医薬品等）を確認している。また医薬品安全性情報の発出、医薬品自主回収の場合には、該当医薬品の使用状況を確認している。</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>医療安全担当主任が収集した使用状況を整理し、必要な情報についてDI ニュース（月1回発行）、薬剤部便り（月1回発行）、通知文書等で周知している。周知状況は各部門・病棟毎に年1回確認票を基に確認している。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>医療安全担当主任は、整理した情報を必要に応じて医薬品安全管理責任者へ報告している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>【未承認等医薬品の処方状況の収集】</p> <p>医療安全担当主任は、調剤担当薬剤師や病棟担当薬剤師より未承認等の医薬品の処方状況を収集している。</p> <p>【未承認等医薬品のリスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】</p> <p>医療安全担当主任は収集した情報を基に、処方の妥当性およびリスク等を確認している。</p> <p>【未承認等医薬品を処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>リスクおよび処方の妥当性を検討後、医療安全担当主任は適宜処方変更を医師へ提案している。さらに使用を継続する場合にはクオリティマネジメント室未承認新規医薬品等管理部門にて未承認薬の臨床使用について検討している。また、医療安全担当主任は検討結果についてリストを作成</p>	

し、医薬品安全管理責任者へ必要に応じて報告している。

・担当者の指名の有無 (有 ・ 無)

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師) (所属： ， 職種)

(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有 ・ 無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
令和2年12月に診療情報管理支援室で「検査等説明書」の記載項目の監査を実施。監査結果は、診療記録委員会、病院運営委員会にて報告。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有 ・ 無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

令和2月12月 診療記録委員会に診療記録監査チームを設置し、診療記録監査を実施。

令和3年3月 監査結果報告書を作成し、診療記録委員会、病院運営委員会にて報告。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有 ・ 無

・所属職員：専従(4)名、専任(2)名、兼任(17)名

うち医師：専従(1)名、専任(2)名、兼任(7)名

うち薬剤師：専従(1)名、専任(0)名、兼任(1)名

うち看護師：専従(2)名、専任(0)名、兼任(3)名

(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

1. メディカル・リスクマネジメント委員会(以下「委員会」という)が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること
2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること
3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認

- を行うとともに、必要な指導を行うこと
4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと
 5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。
 6. 医療内容についての相談等に関すること
 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること
 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること
 9. 医療安全の推進に関すること
 10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関すること。
 11. その他医療安全に関し必要な事項

医師については、専従医師を1名配置、薬剤師については、専従薬剤師を1名配置、看護師については、専従看護師を2名配置済である。

診療内容及び従事者の医療安全の認識について、クオリティマネジメント室と協同し、平時からのモニタリングとして以下の項目を実施している。

- ・手術患者の肺血栓塞栓症の予防対策実施率
- ・手術の予定出血量と実測値の比較
- ・手術の予定手術時間と実際の手術時間の比較
- ・定期的に開催するセミナーでの小テストの実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（6件）、及び許可件数（7件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 1. 高難度新規医療技術を実施する診療科の長（以下「診療科長」という。）から当該高難度新規医療技術の提供の申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、その実施を認める条件等について意見を求めること。
 2. 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、高難度新規医療技術の提供の申請を行った診療科長に対し、その結果を別に定める適否結果通知書により通知すること。
 3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、定期的に、及び術後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
 4. 高難度新規医療技術が適正な手続に基づいて提供されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況

の確認を行うこと。

5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。
6. 大分大学医学部附属病院高難度新規医療技術評価委員会における審査資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (105 件)、及び許可件数 (105 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・ 活動の主な内容：
 1. 未承認新規医薬品等を使用する診療科の長 (以下「診療科長」という。) から当該未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会に対して当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び条件等について意見を求めること。
 2. 前号の意見の求めに応じ、大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会が述べた意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等の臨床使用の適否及び使用条件等について決定し、未承認新規医薬品等の臨床使用に係る申請を行った診療科長に対しその結果を書面により通知すること。
 3. 当該未承認新規医薬品等が適正な手続に基づき使用されていたかどうかに関し、定期的に、及び臨床使用後に患者が死亡した場合その他必要な場合には、診療録等の記載内容を確認すること。
 4. 未承認新規医薬品等が適正な手続に基づき臨床において使用されていたかどうかに関し、従業者の遵守状況の確認を行うこと。
 5. 未承認新規医薬品等の臨床使用の適否について決定したとき、及び前号の遵守状況を確認したときに、その内容について病院長に報告すること。

6. 大分大学医学部附属病院未承認新規医薬品等臨床使用審査委員会における審議資料及び議事概要並びに従業員の遵守状況の確認記録について、審査の日又は確認の日から5年間保存すること

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 231 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 23 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名： 佐賀大学) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名： 宮崎大学) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

昨年度は相互立入り（ピアレビュー）は実施せず紙面調査のみ実施したが、指摘事項等は特になかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

- ① 患者相談窓口（医療安全相談室）の活動の趣旨：患者からの医療内容、医療安全等に関することの相談受付

患者相談窓口（医療安全相談室）の設置状況：窓口名称 医療安全相談室（患者相談窓口）

担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長、医事課医療安全係長

責任者：副病院長（安全管理担当）

相談に応じる時間帯：月～金 8：30～17：15

- ② 医療安全管理マニュアル 総論 第7（患者相談）に下記のように定めている

- 1) 医療相談の受付窓口は、患者相談窓口とする。
- 2) 医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。
- 3) 相談者との面談は、他者のいない個室で、職員2人以上で対応する。
- 4) 医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益

を受けることがないよう配慮する。

5) 医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和2年度医療安全管理セミナー（e-Learning） 6回実施

（講師：薬剤師、臨床工学技士、診療放射線技師、看護師）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者が、公益財団法人日本医療機能評価機構主催の「2020年度特定機能病院管理者研修」を受講済

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和元年7月24日～7月26日に、（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価（主たる機能種別「一般病院3」及び副機能種別「精神科病院」）を受審し、令和2年2月7日に認定（改善要望事項なし。有効期限は令和7年2月6日）を受け、本院HP上で公表済みである。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

該当なし

・評価を踏まえ講じた措置

該当なし

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p>
<p>・ 基準の主な内容</p> <p>【国立大学法人大分大学医学部附属病院長の選考等に関する規程（抜粋）】</p> <p>第3条 病院長候補者となることができる者は、医師免許を有し、かつ、国立大学法人大分大学の教授（教授予定者を含む。）であって、次の各号に掲げる資質及び能力を持つものとする。</p> <p>(1) 人格が高潔で、学識に優れ、人望があり、かつ、医学部附属病院（以下「本院」という。）の現状を理解した上で将来の在り方に明確な理念を持ち、リーダーシップを発揮できる者</p> <p>(2) 医療人教育機関である本院の責任を自覚し、優れた教育者として卒前教育、卒後研修及びその後の医療人養成に貢献できる者</p> <p>(3) 高度な医療を実践する本院の責任を自覚し、最先端の医療の提供を推進できる者</p> <p>(4) 患者の安全を第一として、医療安全の確保を担保する知識、経験及び能力を有する者</p> <p>(5) 科学としての医学の重要性を理解し、医学研究機関である本院の医学研究の発展に貢献できる者</p> <p>(6) 大分県の中核病院である本院のリーダーとして地域医療の現状を深く理解し、その維持及び発展に貢献できる者</p> <p>(7) 病院の運営に関する経験を有し、病院経営を担う能力を有する者</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<p>・合議体の主要な審議内容 病院の運営方針，中期計画，予算及び決算 等</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 ○医学部附属病院運営に関する連絡会 ○医局長会 ○医学部附属病院の院内専用ホームページより常時閲覧可</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 法人本部のホームページにおいて公表している。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
三股 浩光	○	医師	病院長，災害対策室長
柴田 洋孝		医師	内分泌・糖尿病内科長，膠原病内科長，腎臓内科長，血液浄化センター長
松原 悦朗		医師	脳神経内科長，認知症先端医療推進センター長
村上 和成		医師	副病院長，消化器内科長，内視鏡診療部長，肝疾患相談センター長
高橋 尚彦		医師	病院長補佐，循環器内科長，検査部長，CCU部長
緒方 正男		医師	血液内科長，腫瘍内科長，輸血部長
宮崎 英士		医師	総合内科・総合診療科長
寺尾 岳		医師	副病院長，精神科長
井原 健二		医師	病院長補佐，小児科長，遺伝子診療室長，周産母子センター長
猪股 雅史		医師	副病院長，消化器外科長，小児外科長，卒後臨床研修センター長
杉尾 賢二		医師	医学部長，呼吸器外科長，乳腺外科長
宮本 伸二		医師	副病院長，心臓血管外科長，クオリティマネジメント室長
藤木 稔		医師	脳神経外科長，リハビリテーション部長
加来 信広		医師	整形外科長，リハビリテーション科長
清水 史明		医師	形成外科長

波多野 豊		医師	皮膚科長
秦 聡孝		医師	腎臓外科・泌尿器科長
久保田 敏昭		医師	眼科長, 材料部長, 移植・再生医療支援室長
鈴木 正志		医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
河野 康志		医師	産科婦人科長
浅井 良樹		医師	放射線科長, 放射線部長
北野 敬明		医師	麻酔科長, 手術部長, 集中治療部長
坂本 照夫		医師	救命救急科長, 高度救命救急センター長
河野 憲司		歯科医師	歯科口腔外科長
駄阿 勉		医師	病理診断科・病理部長
下村 剛		医師	病院長補佐, 医療情報部長
平松 和史		医師	副病院長, 呼吸器・感染症内科長, 感染制御部長, 医療安全管理部長
上村 尚人		医師	臨床薬理センター長, 総合臨床研究センター長
廣中 秀一		医師	腫瘍センター長
穴井 博文		医師	ME機器センター長
白石 憲男		医師	看護師特定行為統括センター長, 総合患者支援センター長
伊東 弘樹		薬剤師	副病院長, 薬剤部長
富永 志津代		看護師	副病院長, 看護部長
吉田 幸人		技術職員	医療技術部長
安部 功一郎		事務職員	副病院長, 医学・病院事務部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

- ・ 規程の主な内容
【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】
(病院長)

第3条 病院に病院長を置く。

2 病院長は、病院の管理運営を総括し、職員を監督するため、次の各号に掲げる事項について権限を有する。

- (1) 病院の管理運営のために必要となる人事及び予算に関すること。
- (2) 病院の診療、教育及び研究に係る実施の許可、報告、調査、是正又は停止に関すること

- ・ 管理者をサポートする体制 (副院長、院長補佐、企画スタッフ等) 及び当該職員の役割
【大分大学医学部附属病院規程 (抜粋)】
(副病院長)

第4条 病院に副病院長7人を置き、総務・経営・企画担当、安全管理担当、医療人育成担当、先端医療・広報担当、薬事担当、看護担当及び事務担当とする。ただし、病院長が特に必要と認める場合は、更に1人の副病院長を置くことができる。

2 副病院長は、病院長の命を受け、次の各号に掲げる事項について病院長の職務を補佐する。

- (1) 副病院長 (総務・経営・企画担当)
主として本院における経営・企画等、運営戦略的事項全般に関すること。
- (2) 副病院長 (安全管理担当)
主として本院における医療安全管理及び危機管理に関すること。
- (3) 副病院長 (医療人育成担当)
主として本院及び関連病院における卒後臨床研修・地域医療研修の実施・計画等、医療人の育成に関する事項全般に関すること。
- (4) 副病院長 (先端医療・広報担当)
主として本院における先端医療、研究及び広報全般に関すること。
- (5) 副病院長 (薬事担当)
主として本院における薬事業務全般に関すること。
- (6) 副病院長 (看護担当)
主として本院における看護業務全般に関すること。
- (7) 副病院長 (事務担当)
主として本院における事務業務全般に関すること。
- (8) 副病院長 (特命事項担当)
必要に応じ置くものとし、主として病院長が指示した特命事項に関すること。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修、医薬品安全管理責任者等講習会、トップマネジメント

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理責任者、大分大学医学部附属病院メディカル・リスクマネジメント委員会、医療安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者等の業務が適切に行われているかどうかについて、病院長に報告を求めること。 2. 前号に規定する業務に関し、実地の確認を行うこと。 3. 学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう求めること。 4. 医療安全管理に係る監査業務の実施結果について公表すること。 5. その他医療安全管理の監査及び評価に関し必要な事項 <p>・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・公表の方法： 医学部附属病院のホームページにおいて公表している。</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
佐藤 昌司	大分県立病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
岡村 邦彦	岡村法律相談事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
大嶋 美登子	別府大学		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有・ <input type="checkbox"/> 無	2
小野 克重	大分大学医学部		学長が必要と認める者	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
医学部附属病院の業務に関し、特定機能病院の要件及び医療法改正に伴う体制整備等について
定期監査を年に一度実施している。
- ・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (・ 無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
役員会で病院の管理運営に関する重要事項を、経営協議会で病院の収支報告について確認を行う。
- ・ 会議体の実施状況 ※令和3年10月1日時点の開催回数
役員会 (年 10 回)
経営協議会 (年 2 回)
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ※令和3年10月1日時点の開催回数
役員会 (有・無) (年 1 回)
経営協議会 (有・無) (年 2 回)
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (有・無)
- ・ 公表の方法
法人本部のホームページにおいて公表している。

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：

会議体の委員名簿（経営協議会）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
北野 正剛	大分大学	○	有・無
津村 弘	大分大学		有・無
桑田 悟	大分大学		有・無
藤井 弘也	大分大学		有・無
守山 正胤	大分大学		有・無
三股 浩光	大分大学医学部		有・無
高見 博之	大分大学経済学部		有・無
石井 久子	石井法律事務所 弁護士		有・無
井手 由美	大分大学教育学部同窓会「豊友会」 事務局長		有・無
尾崎 春樹	学校法人目白学園 理事長		有・無
桑野 和泉	由布院玉の湯 代表取締役社長		有・無
杉原 正晴	大分交通株式会社 代表取締役社長 大分県経営者協会 会長		有・無
田代 英哉	社会医療法人社団 大久保病院統 括院長		有・無
姫野 昌治	株式会社大分銀行 相談役 大分経済同友会 代表幹事		有・無
広瀬 勝貞	大分県知事		有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 病院HP内の該当URLを貼付し、毎年4月にメーリングリスト(学内周知文書)を用いて、周知を行っている。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>病院ホームページによる情報発信</p> <p>病院広報誌の発行（年4回）</p> <p>県内関連病院長連絡会議の開催（年1回）</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>チーム医療（外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等）を実践しており、複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応を行っている。</p>	